

兵庫医科大学
自己点検・評価年次報告書

2020年度



兵庫医科大学

目 次

はじめに	1
第1章 2020年度 事業計画 達成状況	3
(1) 2020年度 事業計画<重点施策>達成状況報告	4
(2) 2020年度 事業計画達成状況報告	7
第2章 2020年度 兵庫医科大学重点課題 達成状況	9
(1) 2020年度 兵庫医科大学重点課題一覧	10
(2) 各重点課題総括	11
第3章 2020年度 各委員会の目標達成状況	27
(1) 年度目標の設定該当委員会等一覧	28
(2) 2020年度 委員会計画達成状況調査票	29
第4章 2021年度 事業計画・重点課題・各委員会の目標	55
(1) 2021年度 学校法人兵庫医科大学事業計画における兵庫医科大学重点 施策と各種事業計画	56
(2) 2021年度 兵庫医科大学重点課題一覧	61
(3) 年度目標の設定該当委員会等一覧	63
(4) 2021年度 各委員会目標・計画調査票	64
データブック	
学校法人兵庫医科大学 建学の精神	86
兵庫医科大学 使命・目的・教育目標	87
学校法人兵庫医科大学 第3次中期事業計画 2018～2022	89
兵庫医科大学 沿革	90
学校法人兵庫医科大学 組織図	92
兵庫医科大学 組織図	93
兵庫医科大学医学部・大学院関係各種データ	94
おわりに	105

はじめに

本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、4 月の入学式の中止から、カリキュラムの変更および講義のオンライン化による自宅での学修、実習系授業等の変更、留学の中止など、感染拡大防止に対応するため、様々な対策を余儀なくされ、大学の教育研究活動に様々な制約が課せられる年となった。

本学では、緊急事態宣言解除後に、学年ごとのガイダンスを順次実施の上、段階的に登校を再開し、学内でのマスク着用の義務化、大学施設入口でのサーモカメラによる検温の実施、施設内各所への手指消毒剤の設置、学生利用施設の清掃・消毒の徹底、講義室・食堂等での十分な換気並びに身体的距離の確保などの感染防止対策を講じつつ、オンラインによる講義も活用し、学生の安全を最大限に確保しながら、教育の質を保ち、学生の学びの場の充実に努力してきた。試行錯誤を重ねながらの 1 年間であったが、オンラインによる講義では、『オンラインだからこそできる学び』の発見もあり、講義配信のみならず、新しい教育の形を構想する、貴重な機会ともなった。

本書は、内部質保証活動の一環として、2020 年度における本学の教育研究等の事業活動およびその点検・評価の結果を取りまとめたものである。新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、今年度は、これまでとは異なった取り組みが行われており、これらの活動が本学の更なる改善と発展につながるものと考えている。

兵庫医科大学 学長
野口 光一

第 1 章

2020 年度 事業計画 達成状況

(1) 2020 年度 事業計画＜重点施策＞達成状況報告

(2) 2020 年度 事業計画達成状況報告

2020 年度事業計画＜重点施策＞と達成状況

【事業 No.】 1

【事業名】 兵庫医科大学 開学 50 周年記念事業の実施

事業の概要	達成状況
1. 実施事業の立案及び内容の検討 2. 兵庫医科大学開学 50 周年記念事業募金の活動開始 3. 2 大学統合について	1. 50 周年記念事業委員会にて、記念式典の日時、会場（第 1 候補先）、招待者数（概算）を決定した。また、制作物として、記念 DVD を作成することを決定した。 50 周年ロゴマークを作成することとなり、完成後、現在使用を開始している。※2 大学統合・新病院棟竣工・梅田クリニック開設については、各準備室の事業計画に記載。 2. ・募集期間：2021 年 4 月～2026 年 3 月まで（5 年間） ・目標金額：20 億円⇒40 周年時の実績等に基づき委員会にて決定した。 ・活動に要する物品を検討した ①趣意書⇒募金推進委員会を 3 回開催し、3 月度委員会で最終決定した。 ②ホームページ、返礼品、銘板を作成することを決定した。 ・新たな寄付受け入れ方法を導入した。（郵便局口座開設、コンビニ払い・クレジット決済） ・学校債、クラウドファンディングの活用を検討⇒導入しない。 ・募金収集体制（教員・事務体制）の準備資料を作成した。 （依頼先の関連病院リスト、取引先企業リストを作成） 3. (1)寄附行為変更及び学部等設置の関係 3 月 16 日：私学行政課に学校法人の寄附行為変更の認可申請書類を提出済 3 月 17 日：大学設置室に学部等の設置認可申請書類を提出済 (2)大学統合準備委員会の下に、教員組織部会、教員組織部会研究ワーキング、教務部会、入試・広報部会、管理部会を設置し、また、UI・VI 開発・管理運用展開担当を配置し、順次検討を進めている。

【事業 No.】 3

【事業名】競争的資金の組織的獲得推進ならびに新たな研究費助成制度の実施

事業の概要	達成状況
0. 外部資金獲得のための現状分析(2019年度中実施) 1. 科研費獲得のための各種具体的施策の企画・実施 2. 新教員研究費助成制度の実施 3. AMED 委託研究開発課題他競争的資金等の獲得推進 4. その他公的資金、企業資金の獲得推進	0. ① 令和2年度 科研申請に係るアンケートの実施（研究推進 WG） ・ Google フォームを利用し、67名の研究者から回答を得た。 ・ アンケートを整理し、課題の抽出と対応策をまとめた。 ・ 今年度の計画（研究助成、セミナー、科研費申請支援）の策定に活かした。 ② AMED、科研における高額研究資金獲得者へのインタビューの実施 ③ 科研申請採択率の高い講座へのインタビューの実施 ・ ②、③について、インタビューを実施した（URA） ・ ヒアリングの結果をまとめ、申請書作成や審査におけるポイントをまとめ、今年度のセミナーの内容に活かした。 ・ 不採択結果を分析し、低評価に繋がるポイントを整理し、今年度開催セミナーにて紹介した。 1. 科研費新規申請件数 講師以上 139件 助教 90件 ① 研究推進 WG による科研費採択セミナー等企画開催（研究推進 WG） ・ 第1回 WG（4/22）にて年間計画を早期に策定し、周知した。 ・ 策定した内容：目標、セミナー、科研支援、研究助成、通知方法 ・ 科研申請に係るポイントをまとめた資料を基にセミナーを実施した（Web） ・ 昨年度の WG メンバーによる講習会も合わせて配信した。 → Web セミナーの参加者数： 科研費申請セミナー（伊藤 URA+事務局） 76名 科研費採択に向けた本学での申請支援について（八木教授） 49名 ・ 科研申請支援も含めた研究環境の課題抽出のため、アンケートを実施し111名の回答を得た。 → アンケート結果を基に対応すべき課題を整理した。 → 課題の対応策を立案した（関係部署の対応案、次年度計画案）。 ②各講座等に対するヒアリング（学長、学務部） ・ 学長主体で各講座のヒアリングを実施した ・ 各講座における科研やAMEDなどの外部資金の申請・獲得状況、課題の把握を行った。課題情報に関しては、今後の支援に活かす予定である。 ③ 同上 WG による研究計画レビュー又は作成サポートの実施（研究推進 WG、URA、研究協力課） ・ 研究者に WG による支援を通知（6月）し、支援を開始した。 ・ 31名の研究者から支援の応募依頼があり、支援を実施した。 ・ 1名の URA が1ヶ月の介護休暇を取得したため、ほぼ1名で対応した。 ・ 支援内容：概要書を基にした構成のアドバイスおよび申請資料作成支援 2. (1)新たな研究助成の策定（研究推進 WG、URA、研究協力課） 課題の整理と研究助成の目的（本学の研究の活性化、女性や若手の研究支援）を明確にし、それぞれに対応した3つのタイプの研究助成を新設した。 ① 研究活性化助成：大学として興味深い研究に投資をする ② 女性研究者研究助成：女性研究者を支援する ③ 若手研究者研究助成：若手研究者の育成を図る (2)実施内容と結果（研究推進 WG、URA、研究協力課） ① 規程の制定と公募の実施 ・ 規程の制定（5月）、公募（5/27～6/10） ・ 書面・面接審査（6/11～8/7）、採択者の学内通知（8/12）と配分 ② 公募の結果 ・ 採択予定数15に対し、50件の応募があった。 ・ 過去の倍率（0.45・1.3）に比べ 3.3 倍と応募倍率が高く、目標を達成した。

	ダイバーシティ事業との協力： ・ダイバーシティに係る研究助成について、公募・評価などを支援した。 ・来年度については、協力と棲み分けについて意見交換中 研究推進女性の採択課題の対応： ・採択された研究課題から新たな発明があり、特許出願を行った（2月） ・1年間の実施内容に基づき、面談を実施予定（日程調整、順次実施） 3. ☆研究者及び講座のデータベース構築（URA） ・面談を実施した研究者・研究の情報を整理した（130名分）。 ・上記情報と講座情報を基に、検索システムを作成した。 ・情報提供の際には、この検索システムを活用した。 ①公募情報の提供と応募提案（URA、研究協力課） ・AMEDなどの公募情報を収集し、対象となる研究者に情報提供を行った。 ・AMED橋渡し研究の拠点である京大、阪大と包括契約の下で連携し、公募説明会や申請支援を行った。 ②公募申請に係る支援（URA） ・公募申請に際しては、研究者の紹介・橋渡し、研究内容のアドバイス、申請書作成の支援（面談、資料作成）を実施した。 ・実際の申請書類の作成だけでなく、プレゼン資料の作成、ヒアリングなどへの同席を行った（URA）。 ③新規採択・契約延長など（支援分） ・西浦助教・大村谷主任教授（2018～継続中、AMEDプースター） ・中込教授（2020年度～AMEDプースター） ・田中（明）教授（薬学部、2021年度、AMEDプースター事業、分担） ・大村谷主任教授（2021年度、AMED難病、分担） ・波多野主任教授（2019～2020年度、AMED橋渡し研究） ・菊池准教授（2020～2021年度、AMED橋渡し研究） ・芝田助手、小柴主任教授（2021年度JSTA-STEP） 4. ①公募情報の収集と提供（URA、研究協力課） 公募情報等を収集・整理し、全体にはグループウェアにて、個別にはメールにて情報提供を行い、応募の提案と申請支援を随時行っている。 ②研究のマッチングと支援（URA、研究協力課） ・企業等の紹介を行い、打合せ・ヒアリング、資料の作成支援は必ず行った。 ・現在、学学連携として、関学とのシーズマッチングを進めている。 ③現在進行中の大型案件（URA、研究協力課） ・島津製作所、シャープ、京大、先端研（菊池准教授）：「微生物の迅速測定法」 ・島津製作所（菊池准教授） ・パナソニック、肝胆膵外科：「AIを用いた手術のナビゲーションシステム構築」 ・島津製作所、オミクス解析学講座：「オミクス解析を用いたがん診断法」 ・田辺三菱、免疫学、産科婦人科：「子宮内膜症の治療薬開発」 ・日本アビオニクス社、薬学部（芝田助教）：「AIを用いたサーモグラフィ開発」 ・第一三共、免疫学：「感染症、アレルギー、あるいはがん疾患に対する新規免疫療法薬に関する研究」
--	---

2020年度 事業計画達成状況報告

【部門】 兵庫医科大学

NO.	事業計画名	事業の主な内容	達成状況	達成度 評価	未達成内容と今後の対応 (評価が「A」未満の場合は必須)
20	医学教育分野別評価認定取得に向けた取り組み	医学教育分野別評価認定取得までのスケジュールに基づく着実な業務の遂行	① 2/10:医学教育分野別評価機構(JACME)に自己点検・評価報告書データ送信 ② 2/24:JACME事務局から修正依頼 ③ 3/15:JACMEに自己点検・評価報告書提出完了	A (80%以上)	① 4/28 JACME実地調査担当評価者からの質問状到着(予定) ② 5/21 質問への回答締め切り日 ③ 6/1～6/4 実地調査(オンライン) メイン会場:教育研究棟202講義室 学生等の面談室:SGL ④ JACMEからの評価案の通知:受審から約4か月後 ⑤ 本学からの意見書:その後1か月後 ⑥ その後評価結果確定 ※近年の状況(HPより) 2019年10月受審→2021年1月評価確定(認定)
21	大学院教育の改革と充実	1. 修業年限内での学位取得を目指した院生全体での発表会の実施ならびに指導体制の強化 2. 大学院入学生増加を図るための募集施策の実施及び広報活動の強化	1. コロナ禍ではあったが、感染防止対策に努め第3学年次の中間発表会(ポスター発表)を開催した。中間発表会開催後のアンケートにおいては、ポスター作成・発表に必要十分な助言・指導を受けたと回答した者が89%、どちらかといえば受けたと回答した者が11%、また倫理的対応の指導については79%が受けた、21%がどちらかといえば受けたと回答しており、指導体制も強化されている。 2. コロナ禍により積極的な広報活動は実施できなかったが、特別講義の開催等について、将来研究者となりうる医療人育成研修センターの研修医等にも案内通知した。	A (80%以上)	

第 2 章

2020 年度 兵庫医科大学重点課題 達成状況

(1) 2020 年度 兵庫医科大学重点課題一覧

(2) 各重点課題総括

2020 年度兵庫医科大学重点課題

- ・新型コロナウイルス感染対策と対応

＜学長 以下全員＞

- ・医学教育分野別評価対応準備

＜鈴木副学長＞

- ・入試制度の改革、評価

＜八木入試センター長＞

- ・学部教育・国家試験対応の充実

＜石戸教務部長＞

- ・臨床実習の改善及びアウトカム評価の実施

＜石戸教務部長・池内副学長＞

- ・卒後教育体制・初期臨床研修の改善

＜阪上病院長・鈴木副学長・池内副学長＞

- ・大学院及び先端医学研究所の組織改革

＜小山副学長・三輪副学長＞

- ・研究活動の活性化と外部研究資金獲得に向けた対策

＜小山副学長＞

- ・大学の組織改革と運営の見直し〈大学統合を視野に〉

＜学長・三輪副学長＞

- ・教員任期制・教員評価などの制度改革とその実行

＜学長＞

- ・兵庫医科大学卒業生と在学生の帰属意識の向上

＜学長・長谷川学生部長・池内副学長＞

2020 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 新型コロナウイルス感染対策と対応

【記入者名】 学 長

2020 年度 1 学期は、緊急事態宣言発出を受けて 5 月 31 日まで登校を禁止し、全学年 Moodle での録画講義配信による Web 講義を実施、6 月から段階的に登校を開始した。2 学期は全対面講義を再開し、一部感染者が発生したもののクラスター発生等感染拡大の発生は無く、対面講義を継続した。

<学内の感染予防対策について>

感染予防対策として、各所に手指消毒剤の設置、学生食堂、学生ラウンジ等への飛沫防止パネルの設置を行った。特に緊急事態宣言解除後の 6 月から 7 月の時期は、教育研究棟入口にて登校時のサーモグラフィ体温チェックを行い、感染防止を強化した。また、学生に対しては感染状況に合わせた行動指針を示し、マスクの適正着用、検温、手指消毒、学内施設ルール等日頃の感染予防の注意喚起を行った。

会議体では、教授会および研究科教授会開催にあたり、緊急事態宣言解除後 6 月、7 月の開催については、3 密を避けるため従来開催場所としている会議室は使用せず、教育研究棟の 201 講義室（大講義室）を会場とした。

<学事の実施について>

学事について、感染防止対策を講じながら、挙行可能と判断した行事について執り行った。

（学部入学式）

式典については中止。但し新入生向けに新型コロナ感染防止にかかる注意喚起並びに登校禁止期間の学修等に関してオリエンテーションを実施。

（学部卒業式）

参列者の制限（父兄は 1 学生につき 2 名まで、来賓は教員役職者、後援会長、同窓会長のみ）会場の座席使用制限、消毒剤、飛沫防止パネルの設置等感染防止対策を講じた上で挙行。

（篤志解剖体慰霊祭）

参列者の制限（ご遺族・登録者は本人を含めて 2 名まで、学内は教員役職者、各学年学生代表）会場の座席使用制限、消毒剤、飛沫防止パネルの設置等感染防止対策を講じた上で挙行。

（OSCE、Pcc-OSCE）

模擬患者について、ボランティアから学内教職員での対応に切り替えて実施した。

（オープンキャンパス）

大学を会場とした対面型は中止し、代わりに Web オープンキャンパスを公開した。

(入学試験)

文部科学省のガイドラインに基づき感染症拡大防止対策を講じた上で、学校推薦型選抜及び一般選抜を実施した。また、一般選抜 A（4 科目型）については、新型コロナウイルス感染症に罹患した等の理由で受験できなかった志願者の受験機会を確保するため、追試験を実施した。

2020 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】医学教育分野別評価対応準備

【記入者名】鈴木 敬一郎

実地調査が新型コロナウイルス感染拡大のため、延期（2020 年 7 月から 2021 年 6 月に変更）となったことから、一旦完成させた自己点検・評価報告書を再度修正し、また、根拠資料を整備し直し、受審準備を整えた。

- ・ 2021 年 2 月上旬：JACME（日本医学教育評価機構）に自己点検・評価報告書を提出
- ・ 2021 年 2 月下旬：JACME から修正指示到着
- ・ 2021 年 3 月中旬：自己点検・評価報告書&資料を JACME へ送付（最終版）

（次年度のスケジュール 予定）

- ・ 2021 年 4 月下旬：JACME 評価者から質問書到着
- ・ 2021 年 5 月中旬：質問状の回答書送付
- ・ 2021 年 6 月 1 日～4 日：実地調査（ONLINE）

以上

2020 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】入試制度の改革、評価

【記入者名】八木 秀司

・一般選抜 B

新入試制度として導入した一般選抜 B は 3 年目を迎えた。昨年に比較し出願数はやや減少しているが、合格者に比較し十分な志願者数を維持している。2021 年度、2022 年度にかけて、調査書、面接、小論文を含めた入試科目での成績を含め追跡調査を行い適切な学力、人物像の学生が確保できているか検討を行う予定である。

・Web 出願について

2020 年度に、Web 出願を導入し運用を行った。初年度のため出願の傾向が読みにくい傾向があったが、運用は円滑であった。

・志願者数について

一般選抜 A は、志願者数の著しい減少を認めた。要因として、新型コロナウイルス感染症の拡大により医学部受験者が受験校数を絞った可能性、新型コロナウイルス感染症のため広報活動に制限が生じた影響、試験日程の影響が考えられる。また、推薦型選抜においても志願者が減少していることから、兵庫医科大学を第一志望とする受験者が減少傾向にあると考えられる。開学 50 周年、兵庫医療大学との統合を控えており医系総合大学となるが、医学部としての広報活動を通じ認知度を高め志願者を維持しなければ、優秀な学生の確保が困難になる可能性がある。

・新型コロナウイルス感染症について

文部科学省のガイドラインに基づき、新型コロナウイルス対策に応じ、出題範囲の変更と追試験の設定を行った。追試験は申し込み手続きなど設定し、入試運営委員会で実際の運用が行われた。結果として 1 名の追試験受験者があり、順調に終えることができた。大学として社会的な要求には十分に答えられたと考える。

・小論文について

入学者選抜における小論文で、志願者の学力を反映できる問題の設定に関して疑義が生じた。2021 年度に小論文のワーキンググループを立ち上げ、適切な問題作成に関して検討を行う。

2020 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】学部教育・国家試験対応の充実

【記入者名】石戸 聡

【振り返り・総括】

学部教育では、①学修方法指導・支援などの工夫による学生教育の充実、②高学年次の成績不良者（在学年限の上限に達する者を含む）への対策の強化、③臨床実習の改善及びアウトカム評価の実施、④上記達成のための FD 活動の実施、⑤医学教育分野別認証の受審への対応を計画して取り組んだ。

カリキュラムの充実ならびに共用試験・国家試験対応では、①第 1 学年次に対して生命・人体の機能的理解の基礎科目の開講、②第 4 学年次に対して CBT 対策の強化、共用試験不合格による早期留年決定者を対象とした特別カリキュラムの実施、③臨床実習評価の見直し（知識・技能・態度の独立評価、アンプロフェッショナル行動の評価取入れ）、④第 5 学年次に対して早期国試対策の強化、留年生を対象とした特別カリキュラムの実施、⑤第 6 学年次に対して特別補習（合宿／セミナー形式）の強化・実施、留年生を対象とした特別カリキュラムの実施、卒業判定の厳格な実施、を計画して取り組んだ。

本学の医学教育について国際基準による質保証を受けるため、日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価受審を 2020 年 7 月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2021 年 6 月の受審に変更となった。カリキュラム評価委員会、学修成果作成委員会、カリキュラム委員会、教務委員会が PDCA を回すにあたり、それぞれの機能・役割の明確化と実質化を進め、現行カリキュラムや教育体制の見直し、学修成果・マイルストーンの改定、72 週への増週を含む臨床実習の充実、アウトカム基盤型教育の推進など教育改革を継続した。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、状況に応じた学生行動指針の策定や登校禁止措置に伴う WEB 講義の導入、Teams や Moodle 等を活用し双方向による個人指導や口頭試問の実施など、感染防止を念頭に置きつつ、新たな教育体制の構築を行った。

また、ピア・サポートやオフィスアワーなど、対面による学修指導は制約され個別指導制度は十分に活用できなかったため、Moodle にて科目ごとに質問対応できる制度を設け、教育支援の充実を図った。

〈成果のみられた計画〉

■ 学部教育

進級判定の結果、留年者については 2019 年度の 41 名（5.8%）に対して 2020 年度は 50 名（7.2%）と増加したが、退学者については 2019 年度の 6 名（0.9%）に対して 2020 年度は 5 名（0.7%：途中退学 1 名含む）と減少することができた。

その結果、収容定員充足率については、2021 年 4 月時点では 1.05 倍となり、目標である「1.05 倍未満」を僅かに達成できなかった（2020 年 4 月時点：1.04 倍）。今後はさらに、留年者減少に向けての対策を課題とする。

■ カリキュラムの充実

①第 1 学年次に化学、生物学、生化学を水平的・垂直的に統合して理解を深める「生物化学統合 TBL」の開講、②臨床実習における診療科との連絡ツールや EBM のための各種コンテンツにアクセスできるモバイル端末 (iPod touch) の配付、③第 5 学年次成績不良者への早期国試対策の強化として、従来から実施している「臓器別補習講義」の後半期において、知識の定着を図るため分野別講義ごとに学修到達確認テストを実施、④GPA 活用による教育改善 (授業科目間の評価の平準化) の実施、⑤国際基準である臨床実習 72 週に向けた「臨床実習カリキュラムの将来像」の明示、⑥学生が修得した知識や能力を明らかにするためディプロマサプリメントの新規作成、などに取り組んだ。

■ 共用試験 CBT・医師国家試験対応

共用試験 CBT では、本学の平均得点が全国の医学部・医科大学の平均得点とほぼ同じであった(2019 年度までの厚生労働省公表データによる)。IRT に基づいて合否判定すると、2020 年度本試験不合格者は 17 名/124 名 (13.7%) であり、前年度に比較して改善した (2019 年度: 20 名/120 名 (16.7%))。2020 年度新卒生の医師国家試験合格率 (115 回) は 93.1%であり、医学部・医科大学の平均合格率 (私立: 93.8%、全国: 94.4%) をやや下回ったが、関西圏の私立医科大学ではトップであった。なお、既卒生の 6 年連続 100%合格は特筆すべき成果といえる。

【次年度に向けた課題・取り組み】

《学部教育》

次年度においても引き続き以下の課題に取り組む。

1. 学修方法指導・支援などの工夫による学生教育の充実
2. 高学年次の成績不良者 (在学年限の上限に達する者を含む) への対策の強化
3. 臨床実習の改善およびアウトカム評価の実施
4. 上記達成のための F D 活動の実施
5. 医学教育分野別認証の受審への対応
6. 環境の変化に即応したカリキュラム調整とともに対面・遠隔授業または併用 (ハイブリッド) 授業の実施

《カリキュラムの充実ならびに共用試験・国家試験対応》

次年度においても引き続き以下の課題に取り組む。

1. カリキュラムの充実

- ・ 国際基準である臨床実習 72 週に向けてカリキュラムの改編を行い、第 4 学年次授業科目「男性臓器および後腹膜臓器疾患(泌尿器科疾患)」および「女性臓器疾患」の開講を第 3 学年次に前倒しする。2021 年度は移行期間につき、第 3、第 4 学年次の二学年に開講する。

- ・ 本学の教育の信頼性と妥当性を検証するため、各授業科目の評価について、再試験該当状況、科目改善アンケート結果ならびに科目別 GPA の比較等により、授業科目間の成績評価基準の平準化を図るなど、教育改善を推進する。
- ・ 学生の研究マインドを早期に涵養するため、第 1 学年次の希望学生に対して基礎系講座等への研究室見学会を実施する。

2. 共用試験・国家試験対応

- ・ 第 4 学年次：CBT 対策の強化
 - CBT に向けた早期対策ガイダンス
 - CBT 対策 e-learning の実施
 - CBT 運営教員の複数化による危機管理ならびに次世代に向けた体制の構築
 - 共用試験不合格による早期留年決定者を対象とした特別カリキュラムの実施
- ・ 第 5 学年次：早期国試対策の強化
 - 成績不良者を対象とした補習カリキュラムの実施（前・後期で対象学生の入替え有り）
 - 前年度留年生を対象とした特別カリキュラムの実施
- ・ 第 6 学年次：国試対策の強化
 - 臓器別模擬試験および特別補習（合宿／セミナー形式）の強化・実施
 - 学力別クラス編成によるきめ細かい指導に加え、留年生を対象とした特別カリキュラムの実施
 - 卒業判定の厳格な実施

《新型コロナウイルスへの対応について》

- ・ 2021 年度からは対面型教育を中心とする予定であるが、感染対策は継続する。感染流行状況等、環境の変化に即応しカリキュラムや行動指針の変更等については柔軟かつ速やかに対応する。
- ・ 感染対策と教育の維持を両立するため、対面・遠隔授業または併用（ハイブリッド）授業の実施体制・環境を整備・確立する

2020 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】臨床実習の改善及びアウトカム評価の実施

【記入者名】石戸 聡、池内 浩基

本年度の総括

昨年度より、卒前・卒後の一貫した教育体制を構築するため、医療人育成研修センターによる運用を開始し、本年度は本格稼働となった。運用過程で、医療人育成センターと学務部との役割分担や連携が不十分なところがあり、一部業務に時間を要する事案が数件あった。

前年度の3月から今年度の5月にかけて、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、5年生では学外臨床実習が、6年生では自由選択実習が予定通りに行うことができなかった。院内実習への振り分けや、代替案として課題に対するレポートを提出させた。そのため、本年度は低学年での臨床実習も含めて、67週行う予定であったが、実際に遂行することはできなかった。残念なことは、6年生で1名レポートの剽窃があり、臨床実習が不合格ということで留年となった学生が存在したことである。

また、臨床実習のアウトカム評価は臨床実習シラバスに記載されているが、臨床実習評価として1. 知識 2. 技術 3. 態度による評価を行った。これに加えて内科、外科、産婦人科、小児科では、パフォーマンス評価として、Mini-CEX、DOPS、症例プレゼンテーション、シミュレーターを用いた技能評価を最低限1つ組み入れて総合評価を行った。実習成績不良者には中間点で呼び出しの上、今後の実習態度の改善が認められない場合は留年もありうることを注意したにも関わらず、実習成績不良により2名が留年となった。

プレゼンテーション試験に関しては、今年度から第6学年次に行うことになり、本年度中の実施は無かった。

次年度に向けた課題

1. 医療人育成センターの業務効率のup

本格稼働から3年目となるため、これまでの経験に加えて、新しい事案に対してもその処理能力の効率化をはかる。

2. 臨床実習の成績不良者に対する対策

今年度のように試験の成績ではなく、臨床実習の態度不良による留年生を出さないために、中間点だけでなく、ある一定の減点に達した学生またはC評価を複数個所で受けた学生に対する個人指導を強化する。

3. 臨床実習評価の各診療科間の均一化

評価表一覧を見ると、ほぼ全員に同じ評価をしている診療科が存在する。今後臨床実習はさらに延長され、重視されるわけであるから評価者の意識改革も必要であり、個々の学生の適切な評価を行っていく。

2020 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 卒後教育体制・初期臨床研修の改善

【記入者名】 池内 浩基、鈴木 敬一郎、阪上 雅史

本年度の総括

2020 年度は、基本プログラム：51 名、小児科重点プログラム：2 名、産婦人科重点プログラム：2 名、外科専門医取得プログラム：2 名、たすきがけプログラム：2 名いずれもフルマッチとなったため、充足率は 100%となった。本学出身は 46/59（78%）であり、従来よりも本学出身者の比率がやや高い結果となった。

本年度中の早期臨床研修医の退職者は 1 名、休職者 1 名となっており、いずれも体調面と精神面の問題が原因であった。

本年度に特に問題となったのは、まず、ささやま医療センターでの指導者間に指導力に差があり、十分な指導が受けられなかったという研修医からの声があった。これに関しては、本院の担当者がささやま医療センターに出向き、改善方法の議論を行った。次に、救急部での時間外手当や、当直回数の適正化である。これは次年度より、協力型プログラムが開始されるため、当直体制は根本的な見直しが必要で、以下のように変更することとした。

次年度に向けた課題

1. 初期研修医の質の向上

学内からもできるだけ成績上位者を採用するとともに、フルマッチにこだわることなく、卒前の修学内容も参考に採用者を選考する。

2. ささやま医療センターでの指導力の向上

本院総合内科から、教員が地域総合医療学に配置換えとなっており、内科領域で実習内容の改善が期待できる。一方、外科、整形外科は減員となるため次年度の実習状況を評価し、2022 年度に向けた対策が必要である。

3. 救急部の当直体制の構築

協力型プログラムの運用開始により研修医の絶対数が不足するため、2 年生の当直は、救急部のみで行うこととし、当直の翌日は休日を取らせることにした。

4. 協力型プログラムの運用開始

来年度は 8 病院での協力型プログラムの運用が開始される。初年度であり、各病院の現状を評価しつつ、協力型病院の入れ替えも今後の検討課題である。

5. 基礎研究医プログラムの運用開始

通常のプログラムとは別に 1 名の基礎研究医プログラムの募集が許可された。在学中の研究医コースの学生からの応募を期待している。

2020 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】大学院及び先端医学研究所の組織改革

【記入者名】小山 英則、三輪 洋人

大学院の組織・教育改革

1) 組織改革

- ・ 該当項目なし

2) 教育改革

- ・ 第4学年次の学位取得率は64.3%と目標の50%を達成した
 - ・ 留年生の学位取得率は43.4%で、目標の40%を達成した
 - ・ 共通コースの再編
従来の実習型から、基礎・臨床の研究課題に応じた共通コース講義に再編
 - ・ 選択必修特別講義の再編
医学会学術講演会を重要視し、選択必修特別講義とした
先端研究にかかわるテーマが主体となることが多い大学院FD講演会を含めた
臨床研究研修会は特別講義から共通コースに変更した
 - ・ 大学院研究助成規定の改訂
第2学年から応募可能とし、研究立案中心の課題の申請も推奨
研究期間を大学院4学年（正規）までとする
 - ・ 研究発表会の実施体制の改編
医学会運営委員会と協調し、大学院生の発表・議論機会の提供の方向性を得た
 - ・ 学位論文審査方法の変更
公聴会における質疑応答内容を重視した学位論文評価報告書を新たに導入
大学院学術賞の選定にも参考文書として取り入れる方針とした
- #### 3) 次年度に向けた課題
- ・ 大学院学位取得率、留年生の学位取得率向上に向けた対策の継続
 - ・ 大学院入学増加、大学院生の研究活性化に向けた対策
 - ・ 大学院教育体制の検討（研究基盤教育学科目との連携など）

先端医学研究所の組織改革

兵庫医科大学先端医学研究所規程に基づき、2020年6月24日に学長から先端医学研究所あり方検討委員会に対して先端医学研究所各部門の評価の実施が諮問された。同委員会では、先端医学研究所あり方検討委員会規程第2条第2項に基づき、先端医学研究所における部門評価にかかる申し合わせに従って、各部門の研究業績、外部資金獲得状況、共同・受託研究状況などの観点から各部門評価を行い、2020年12月8日付同委員会で学長にその評価を答申した。

その評価に基づき、学長から細胞・遺伝子治療部門を廃止、既存の神経再生研究部門の存続及び従来の医薬開発研究部門を再編し、分子細胞治療部門、未来医療開拓部門

を設置することが提案された。その後大学運営会議、および12月10日付教授会でこの案が承認された。

その結果を受けて先端医学研究所の改組に係る基本方針が2021年2月1日付常務会に付議され、承認を得た。この基本方針を踏まえ、2021年2月10日付大学運営会議、2021年2月12日付教授会、2021年2月16日付常務会を経て、先端医学研究所規程の一部改正により、同研究所の改組が正式に決定した。

今回は、これまでの評価に基づいて先端研究所の組織再編を行ったが、今後も定期的に評価を行うことで緊張感を保ちながら研究所の活動を活性化したい。さらに、大学のプレゼンスを高めるために先端研の人事面を含めて研究所の在り方について継続的に討議したい。

2020 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 研究活動の活性化と外部研究資金獲得に向けた対策

【記入者名】 小山 英則

総括

1. 科研費採択数・採択率向上に向けた対策

1) 申請初心者向けセミナー・説明会の実施

- ・ 研究推進 WG による科研費採択セミナー等企画開催（Web 開催）（6 月）
申請書のポイントをまとめた資料を基にセミナー（講師：URA）を実施
- ・ 2019 年度 WG メンバーによる講習会（講師：八木教授）の Web 配信

2) 審査経験者ヒアリングによる重要視する申請書のポイントの整理・セミナーへの反映

- ・ URA が 8 名の審査経験者の先生からヒアリングを実施

3) 各講座等に対するヒアリング（学長、学務部）（7～8 月）

- ・ 学長主導で各講座における外部資金の申請・獲得状況、課題の把握

4) 科研申請書作成支援

- ・ 支援活動の早期化
第 1 回 WG 会議（4/22）にて年間計画を策定。
研究計画レビュー又は作成サポートの実施（WG、URA、研究協力課）
研究者への支援通知（6 月）と支援開始。
- ・ 研究者による概要書作成を重視。これを基に申請書の構成・資料作成支援

2. 研究推進活動

1) 改訂研究助成制度の実施

- ・ 昨年度大きく改訂した助成制度を初めて実施
- ・ 研究活性化助成（4 名）、女性研究者助成（3 名）、若手研究者助成（8 名）の募集
- ・ 審査委員による評価。研究活性化助成についてはヒアリングも実施

2) 研究環境課題の抽出

- ・ 科研申請支援も含めた研究環境の課題抽出のためアンケート実施（9～10 月）
- ・ 対応すべき課題の整理、対応策を立案（関係部署の対応案、次年度計画案）

3) 科研費間接経費の取り扱いについての議論と改変の提案

次年度に向けた課題

1) 外部資金獲得（科研費採択など）に向けた継続的な対策

2) 研究活動活性化対策

- ・ 学内横断共同研究、特に基礎・臨床講座間の連携推進
- ・ 若手研究者の研究発表・議論の機会提供、
- ・ 研究助成制度の改善

2020 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 大学の組織と運営の見直し＜大学統合を視野に＞

【記入者名】 大学統合準備室教員組織部会長 野口 光一

大学統合を見据えた大学の組織と運営の見直しについては、大学統合準備委員会教員組織部会で検討を行い、2021 年度も検討を継続する。また、文部科学省に設置認可として提出する必要がある「学部学則」「大学院学則」「兵庫医科大学教授会規程」「兵庫医科大学研究科教授会規程」等の整備を行った。また、「兵庫医科大学大学運営会議規程」等の関係規程も順次整備した。

2020 年度の大学統合準備室 教員組織部会での主な決定事項を以下に示す。

- ・統合後の「教員組織基本図」を策定し、それぞれの組織の機能・役割を明確化。
- ・統合後の大学の最高意思決定機関を「大学運営会議」と位置付け。
- ・4 学部「学部教授会」を設置し、その機能・権限を明示。
- ・「研究科教授会」も同様に 4 研究科に設置し、学部長が研究科長を兼務。
- ・副学長の設置。（詳細は役割、権限の範囲などは検討中）
- ・教務部、学生部、入試センターについては各キャンパスに設置、教務部長、学生部長、入試センター長をキャンパス毎に 1 名ずつ配置。
- ・図書館は、両キャンパス合計で図書館長 1 名及び副館長 1 名を配置。

※上記組織の機能、権限、運営等は順次検討・制定中。

2022 年度以降の教員人事に関し、採用活動が 2021 年度内にも開始されることから、教員人事関連の規程改正等については優先的に検討を進める。

大学統合が 2022 年 4 月に予定されていることから、2021 年 12 月頃までには、委員会等の組織の役割、機能を明確にし、規程化を進める。また、各種運用を見直し、2022 年 4 月から新兵庫医科大学としてスタートを切れるように各種整備する。

以上

2020 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】教員任期制・教員評価などの制度改革とその実行

【記入者名】野口 光一

1. 教員任期制

2021 年 2 月 24 日の大学運営会議において、兵庫医科大学と兵庫医療大学で教員の雇用年限及び任期が異なることから新基準案について検討した。2 大学統合に向け規程の見直しが必要であり、今後統合準備委員会教員組織部会にて引き続き検討することとした。

2. 教員評価

任期制教員の任期満了時のみ実施している主任教授評価について（2020 年 4 月 1 日時点で）定年退職まで 5 年以上の主任教授及び主任教授任用後 5 年目の教員に対して評価をした。評価手順は、被評価者の選定、被評価者作成の自己評価資料（再任評価の様式に準拠）をもとに学長、病院長（臨床系講座のみ）と面談の上、学長から常務会へ評価結果を報告した。

主任教授評価について、2021 年度においても 2020 年度と同様の実施要領で定年退職まで 5 年以上の主任教授、主任教授任用後 5 年目の教員に対し実施予定である。

2020 年度兵庫医科大学重点課題 総括

【重点課題名】 兵庫医科大学卒業生と在学生の帰属意識の向上

【記入者名】 池内 浩基、長谷川 誠紀、野口 光一

本年度の総括

1. 緑樹会との協力体制の構築

緑樹会役員と本学役員が忌憚なき意見を交換し、相互理解を深めるために定期的に行うこととなった懇談会は本年度も 2 回開催された。主に 50 周年記念事業や梅田クリニック等についての話し合いが行われた。また、在学生の帰属意識向上のため、本年度も白衣授与式に授与した白衣には兵庫医科大学と緑樹会のロゴマークを両袖にそれぞれ刺繍したものを用いた。

2. 後援会との関係

兵庫医科大学後援会との関係は今まで通り良好であり、今後も一層の意思疎通と関係強化を図っていく必要がある。

3. 本学卒業生の幹部教員への登用

講師 A 以上の登用数は、昨年度は 80/252 (31.7%) であった。今年度は現時点で 78/239 (32.6%) とほぼ横ばいの推移であるが、本年度は耳鼻咽喉科学で主任教授に、皮膚科学で臨床教授への卒業生の登用があった。

4. 50 周年に向けた取り組み

2022 年 4 月に 2 大学が統合され、開学 50 周年記念事業が行われ予定である。そこで大学統合準備会メンバーに、緑樹会メンバーも加わり統合後のロゴマークとスローガンの制定が行われ、スローガンは『EMPOWER THE PEOPLE 心に響く医を、私たちがいるかぎり』に決定した。

次年度に向けた課題

1. 50 周年事業の成功に向けて

50 周年記念式典の成功は帰属意識の向上に大きく寄与する。記念式典では新家前理事長、野口学長、大江緑樹会副会長の講演が予定されている。

2. クラブの OB 会の再構築による卒業生の帰属意識の向上

OB 会が定期的に行われているクラブがある反面、OB 会が全く機能していないクラブも存在する。理事長からの提案もあり、OB 会が機能していないクラブに関しては再構築を図り、OB 会と学生との連携強化を図る予定であったが本年度はコロナ感染症のために前進させることができなかった。次年度の課題としたい。

3. 緑樹会、後援会との関係強化

引き続き緑樹会、後援会との良好な関係を維持し、帰属意識向上に向けての問題点を整理し合意形成を図っていく。

第 3 章

2020 年度 各委員会 の 目標達成状況

(1) 年度目標の設定該当委員会等一覧

(2) 2020 年度 委員会計画達成状況調査票

委員会の年度目標の設定該当委員会等(2020年度)

No	会議・委員会等	委員長等	領域	事務
1	兵庫医科大学 学修成果作成委員会	成瀬 均	教育	学務部
2	兵庫医科大学 カリキュラム評価委員会	鈴木 敬一郎	教育	学務部
3	兵庫医科大学 カリキュラム委員会	石戸 聡	教育	学務部
4	兵庫医科大学教務委員会	石戸 聡	教育	学務部
5	兵庫医科大学学生部委員会	長谷川 誠紀	学生支援	学務部
6	兵庫医科大学入試企画等検討委員会	八木 秀司	入試	学務部
7	兵庫医科大学研究医コース委員会	鈴木 敬一郎	教育	学務部
8	兵庫医科大学国際交流センター委員会	三輪 洋人	国際交流	学務部
9	兵庫医科大学情報メディア委員会	三輪 洋人	教育	学務部
10	兵庫医科大学図書館委員会	島 正之	教育	学務部
11	兵庫医科大学大学院委員会	小山 英則	大学院	学務部
12	学校法人兵庫医科大学医療人育成研修センター運営委員会	鈴木 敬一郎	教育・臨床	医療人育成課
13	兵庫医科大学病院前期研修管理委員会	池内 浩基	教育	医療人育成課
14	兵庫医科大学病院後期研修管理委員会	池内 浩基	教育	医療人育成課
15	兵庫医科大学ささやま医療センター教育・研修委員会	片山 覚	教育・臨床	篠山キャンパス事務部
16	兵庫医科大学倫理審査委員会	廣瀬 宗孝	倫理	学務部
17	先端医学研究所運営委員会	吉村 紳一	研究	学務部
18	共同利用研究施設運営委員会	中込 隆之	研究	学務部
19	兵庫医科大学動物実験委員会	石戸 聡	倫理・研究	学務部

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】学修成果作成委員会

【責 任 者】委員長： 成瀬 均 事務担当： 学務部

1.年間目標

(1) 使命ならびに学修成果の教員・学生への浸透度を高める。 (2) 学修成果の達成状況を検討し、改善を行う。

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	使命と学修成果の教員・学生への浸透	教員に対しては、教育力向上セミナーでミッションカード携行有無のアンケート調査を行い、53.8%が携行しているという結果であった。学生に対しては、IR室が実施する学修動向調査の設問で同調査を行い、38.0%が携行しているという結果であった。 上記の結果から教員・学生のいずれも目標不達成となった。	ミッションカード携行率 (教員・学生共に80%以上目標) ・教員：53.8% ・学生：38.0%	左記のとおり、ミッションカード携行率の目標は不達成となった。学生の携行率は昨年10%程度から漸増しており、各種周知施策による効果が見られる。教員に関しては昨年64.6%から微減となっており、周知が十分に図れていなかった。 今後の対応としては、2021年度も同一の目標を掲げ、講義や各種集会のタイミングで教員・学生へミッションカードの携行と内容の把握を促し、使命と学修成果の浸透に引き続き取り組むこととした。 【2021年度4月時点における周知実績】 学生向け：4月5日の各学年ガイダンスで委員長よりミッションカードの常時携行を指示。 教員向け：4月8日の教育力向上セミナーで学修成果周知動画を放映)
2	学修成果の改善	委員会開催時期を事前調整し、カリキュラム評価委員会の評価に基づき学修成果の改善を進めて行けるように態勢を整えたが、カリキュラム評価委員会から学修成果の改善点が挙がってこなかったため、学修成果作成委員会内での自己点検に基づく改善のみを行った。	カリキュラム評価委員会から学修成果の改善点が挙がらなかったため未対応。 ※カリキュラム評価委員会の評価結果において、学修成果自体の改善が必要と認められる項目の改善有無を指標としていた。	カリキュラム評価委員会から学修成果の改善点が挙がらなかったため、今の学修成果は関係各所のニーズを充足するものになっているとの認識である。2021年度は新たな評価結果が下されることも考えられるため、引き続き、本項目を年間計画に含めて取り組むこととした。

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】カリキュラム評価委員会

【責 任 者】委員長： 鈴木 敬一郎 事務担当： 学務部

1.年間目標

(1) 各種データに基づき本学教育カリキュラムの検証・評価を行い、改善に向けて、その結果を関連委員会等に報告する。

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	2019年度カリキュラム実施結果の点検・評価	モデルコアカリキュラムとカリキュラムの関係資料や学生による科目改善アンケートを用いて2019年度カリキュラムを点検・評価した結果、概ね問題無しと評価した。 点検・評価で使用した「学生による科目改善アンケート」については、科目ごとに設定している学修成果（アウトカム）の到達度を正確に測るために、科目の最終講義終了後にスマホなどを使用して調査する方法の検討や現在の調査項目の見直しが必要であると評価した。	<u>100%達成</u> 本件については、各委員会へ提言することは無かったが、IR室へアンケートの調査方法の見直しについての提言を行うこととなった。	特になし
2	コロナウイルスの影響により変更したカリキュラムの点検・評価	コロナウイルスの影響で、年度初めのスケジュールのとおり実施できなかったカリキュラムについて、補講やweb講義などで代替教育を実施できたと評価した。	<u>100%達成</u> 点検の結果、特に問題なしという結論になったため、各委員会への提言はする必要が無かった。	特になし
3	新臨床実習プログラムの点検・評価	2018年度と比較し、2学年が重なる点について課題であると評価した。	<u>100%達成</u> できるだけ2学年が重ならないよう改善案を検討するようカリキュラム委員会に提言した。	特になし
4	6年 国試対策カリキュラムの点検・評価	年度別の医師国家試験の合格率、2019年度（第114回）の医師国家試験結果を用いて国試対策カリキュラムの点検を行った。結果、概ね問題無しとなった。	<u>100%達成</u> 点検の結果、特に問題なしという結論になったため、各委員会への提言はする必要が無かった。	特になし

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
5	5・6年特別カリキュラムの点検・評価	特別カリキュラム受講生の総合進級試験・卒業総合試験の結果をはじめ、定員充足率、留年数の推移等の資料を用いて点検・評価した結果、5年特別補習カリキュラムは概ね問題無しと評価した。また、6年の在学年限最終年度（カド番）学生に課した特別カリキュラムについて点検した結果、web学修・チューター指導が中心ではあるが、本学通常カリキュラムを履修したうえでの特別補習であることから、教育効果上は特に問題無しと評価した。	<u>100%達成</u> 点検の結果、5、6年特別カリキュラムではなく、第3学年時の進級要件のハードルの低さが課題であるという判断から、各学年次での総合進級試験・共用試験CBTの配置について検討するよう、カリキュラム委員会に提言した。	特になし

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】カリキュラム委員会

【責 任 者】委員長： 石戸 聡 事務担当： 学務部

1.年間目標

(1) 学修成果作成委員会で審議したディプロマ・ポリシー及び学修成果を、教員へ定着させる。
(2) ディプロマ・ポリシーを踏まえたカリキュラム・ポリシーの改善について意見を集約し、反映する。
(3) カリキュラム評価委員会の意見を踏まえ、次年度カリキュラムを作成する。

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	ディプロマ・ポリシー及び学修成果の教員への定着	本件は、学修成果作成委員会にて対応することとなった。	学修成果作成委員会にて対応するため、記載なし。	特になし
2	カリキュラム・ポリシーの点検・評価・改善	委員長から資料を用いて、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの位置づけを説明があり、委員にカリキュラム・ポリシーの点検意見を求めたが、特に修正意見などが出なかったため今年度については変更なしという結論となった。	<u>100%達成</u> カリキュラムポリシーの点検・評価は8月5日に終えたことで、2021年度カリキュラムの作成始動（10月末）に間に合わせる事ができた。	2021年度も同様に点検・評価を行っていく。
3	2021年度カリキュラム作成	①カリキュラム評価委員会からの提言（各学年時における総合進級試験・共用試験CBTの配置について検討するべきである）に基づき、第3学年次カリキュラムの見直しの一環として、CBT実施学年を数年以内に第4学年次から第3学年次に移行することを検討することと、教務委員会に提言することとなった。それに伴い、2021年度 第1学年次カリキュラムへの影響および変更点について審議し、例年どおりのスケジュールで実施することとなった。 ②また、医学教育分野別認証の受審に向けて、臨床実習期間を72週にするため、「男性臓器および後腹膜臓器疾患（泌尿器科疾患）」及び「女性臓器疾患」の2科目を第4学年次から第3学年次に移行することとし、移行期間である2021年度は2学年で開講する改善を教務委員会へ提案することとなった。	<u>100%達成</u> 2021年度のカリキュラム変更案は10月14日に完成したため、目標の10月末に間に合わせる事ができた。	2021年度も同様に点検・評価を行い、CBTを3年生に移行するための方策を検討する。また、共用試験実施評価機構へ、4年から3年へ移行許可をいただけるか確認することとする。

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
		③プレゼンテーション試験については、第6学年次に卒業要件として実施することとして、教務委員会に提案することとなった。		

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】教務委員会

【責 任 者】委員長： 石戸 聡 事務担当： 学務部

1.年間目標

(1) 医師国家試験合格率の向上
(2) 留年者・退学者の抑制
(3) 教員教育力の強化
(4) 医療・研究倫理観の育成

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	医師国家試験の対策	・新型コロナウイルスの影響により、一部カリキュラムの実施が困難となったが、合宿の学内セミナー形式への変更や、生講義のWEB配信など、できる限り学力の維持・向上に努めた。 ・国試合格率は昨年度より低下したが、目標「合格率90%以上」はクリアし、関西圏私立医大ではトップの結果であった。	第115回医師国家試験の結果は以下のとおり。 【新卒】 合格者数：101名中、94名（93.1%） 私立医科大学29校中 第18位 【既卒を含めた総数】 合格者数：104名中、97名（93.3%） 私立医科大学29校中 第17位	・特に重点的に行うべきCクラス生や卒業認定保留者への指導について、新型コロナウイルス感染症流行期には充分には行えなかった。 ・2021年度は、感染対策を講じた上で対面教育を中心に、引き続き国家試験対策の強化と、卒業判定の厳正化に取り組む。
2	成績不良者の対策	・1学期はWEB学修が中心となったため、成績不良者に対して従来どおりの対面型にて対応できない場合は、TeamsやMoodleを使用しての個別指導・教育的支援を行った。2学期以降は従来どおり対面型中心で対応した。 ・ピア・サポート、オフィスアワー等による個別指導制度は十分に活用できなかったため、科目ごとにMoodleにて質問対応できる制度を設けた。 ・第5、第6学年次では、成績別クラスに基づいて、補習講義や合宿型補講を実施したが、状況に応じて学外施設での合宿を学内セミナー方式に変更して実施した。 ・同一学年で複数回留年し、在学年数の上限となる学生に対しては、別途、特別カリキュラムを実施した。	・2019年度の留年41名（5.8%）に対し2020年度は50名（7.2%）と増加したが、退学者については2019年度の6名（0.9%）に対し2020年度は5名（0.7%：途中退学1名含む）と減少することができた。 ・2021年4月時点の定員充足率は1.05倍となり、目標である「1.05倍未満」を僅かに達成できなかった（2020年4月時点：1.04倍）。	・退学率は減少したが、留年率は上昇した。2021年度は、感染対策を講じつつ、対面型中心にてカリキュラムを行う予定であり、低学力者対策にも積極的に取り組む。 ・感染流行状況等により、対面とWEB学修を組み合わせたハイブリッド型授業の実施についても検討するが、WEB学修においてもログイン状況や確認テスト結果等により、成績不良者への早期対応を図る。

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
3	教員教育力の向上施策	①教員を対象として、教育力向上を目標として、必要に応じたテーマを選定しFDを実施した。 ②学生による授業評価（講義・臨床実習）、属科目による授業評価アンケートを行い、教育改善を図った。	① <u>100%達成</u> ・全教員を対象とし、教育力向上をテーマとしたFDとして、教務委員会関連としては以下のとおり予定どおり実施 「国試出題傾向からみた良い総合試験問題の作成」（塩澤客員教授） 「兵庫医大の教育について～課題と新たな取り組み～」（鈴木医療人育成研修センター長） ・別途、医学教育センターにおいても、医学教育をテーマとしたFDを定期的に実施した。 ② <u>80%達成</u> ・感染対策としてWEB講義を導入したことにより、同僚評価や授業評価の一部は実施できなかったが、臨床実習の評価については完了し表彰を行った。また、遠隔授業において学力の維持・向上に貢献があった医学教育センターに特別表彰を行った。 ・全授業科目を対象とした属科目評価や、GPAを活用し授業科目間の成績評価規平準化制度を導入した。集計結果は、IR情報として、教育改善に資する予定。	① FDについては、一部WEBでの学内配信となったが予定通り実施できた。2021年度以降も継続して実施する予定。 ② 1学期はWEB学修が中心、2学期以降は対面型教育が中心となり、授業方式が異なる体制となったため、第1～第4学年次の教員への個人表彰については行わなかった。2021年度については実施する予定。
4	医療・研究倫理教育の推進	各学年次において医療・研究倫理教育を実施し、医師・研究者として必要な倫理観を涵養した。	<u>100%達成</u> 医師・研究者として必要な倫理観を涵養するため、第1～第4学年次に対する倫理教育（授業・実習科目）及び第4～第5学年次臨床実習において倫理教育（APRIN-e ラーニングプログラム）を実施した。	新型コロナウイルスの影響により、予定どおり実施できなかった授業・実習科目については、補習等により実施した。次年度についても、各学年次において医師・研究者に必要とされる医療・研究倫理教育を継続して実施する。

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
5	新型コロナウイルス (COVID-19) 対応	・感染流行状況や、国・県の指針に基き、学生への周知、指導や教員への通知等を行った。 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う新たな教育環境の整備を行った。	<u>100%達成</u> ・登校禁止措置～対面型授業の再開へと、感染流行の状況や、国・県の指針に基き、カリキュラム調整や学生行動指針の策定・周知、教員通知などを行った。「3密」防止や、マスクの適正着用、など学生への注意喚起についても適宜行った。 ・登校禁止期間においては、Moodle配信によるWEB講義を実施するとともに、Teams等WEB会議システムを活用した学生面談や口頭試問を行い、自宅修学により学修環境を継続した	・2021年度からは、対面型を中心としたカリキュラムの予定であるが、感染対策は継続する。また、感染流行の状況等によるカリキュラムや行動指針の変更等については柔軟に対応する。 ・Moodleによる配信を遅延なく行い、対面、遠隔、併用（ハイブリッド）授業など、環境の変化に即応できる体制を構築する。

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】学生部委員会

【責任者】委員長：長谷川 誠紀 事務担当：学務部

1.年間目標

(1) 学生の課外活動への支援の充実を図る。
(2) 学生支援体制の充実を図る。
(3) 奨学金貸与に係る支援の充実を図る。
(4) 学生会との連携を図る。

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	奨学金貸与に係る支援	- 新型コロナウイルス感染拡大による影響で経済的に困窮している学生が利用可能な支援制度について、情報を集約した上で本学HPに公開し、全学生へ一斉メールで周知した。また、追加情報が確認でき次第随時更新し、各種支援制度について最新の情報を提供した。 - 日本学生支援機構貸与型奨学金については、対面での説明会は実施せず、公式HPの説明動画を閲覧するよう案内する等、必要な情報源へのアクセス方法を周知した。また、奨学金申請に係る必要書類はすべて郵送で授受し、問い合わせには電話とメールで対応した。 - 学生・保護者からの相談内容に応じて、最適と思われる奨学金制度の紹介を行った。	<各種奨学金制度の採用状況> - 兵庫県推薦入学制度：5名入学（うち1名退学） - 日本学生支援機構奨学金：13名採用 - 兵庫医科大学奨学金：1名採用 - 特定診療科医師養成奨学制度：1名採用 - 外科系医師養成奨学制度：1名採用 - その他（各1名ずつ推薦）：長崎県医学修学資金貸与制度、岐阜県選奨奨学金、国際医学教育財団奨学金 <新型コロナウイルス感染拡大による特例措置等支援制度の利用状況> 「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』：8名採用	- 引き続き、支援を必要とする学生へ確実に情報が行き渡るよう、周知を徹底する。 - 引き続き、学生の個々の状況に応じた最適な支援を行う。
2	学生生活支援の充実	- 学年担任、アドバイザー教員、医学教育センター、学生相談室、学生保健室が連携して、学生・保護者からの相談対応を行った。 - コロナ禍に伴う登校禁止期間中、特に新入生へのフォローとして、アドバイザー担当教員による個別の状況確認・相談対応等（電話、メール、LINE等による）を実施した。 - 学生相談室はオンラインでの相談対応を開始した。 - 感染拡大防止の観点から、顔認証による出欠管理システムは使用停止となった。	コロナ禍の影響により心身に変調を来した学生に対しては、各担当者が連携して支援を尽くしたが、学生のドロップアウトを完全に防止するには至らなかった。	コロナ禍における欠席調査のあり方について要検討。

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
3	クラブ活動への支援	・コロナ禍の影響により、学生の課外活動については完全に停止せざるを得なかった。 ・課外活動は停止中であったが、学生からの要望に応え、オンラインでの新入生歓迎イベントや、感染対策を十分講じた上で上級生との交流会等を開催した。 ・本学競技スキー部が西医体冬期大会の主幹校に任命されていたが、西医体総主管校の鹿児島大学等と調整し、慎重に協議を重ねた結果、所定のプロセスを経て、西医体冬期大会の開催を中止するに至った。 ・安全面で問題のあったクラブ関連施設（アーチェリー場の防矢ネット、サッカー・ラグビー場の土の入れ替え、野球場のネット増設等）の改修工事については予定どおり行い、滞りなく完了した。		・感染拡大の状況等を鑑みた上で、段階的な課外活動再開案を策定中。 ・安全衛生管理上、改修を要するクラブ関連施設（鳴尾浜総合グラウンド野球場（抜本的な整地）、平成記念会館アリーナ（昇降照明の更新）等）については、施設整備課へ対応を要請する。
4	危機管理体制の充実	・年度初めの段階で、全学生の最新の連絡先を安否確認・連絡網システムへ登録させることができた。 ・登校禁止期間中においても重要な連絡事項を漏れなく確実に周知することができた。 ・学生の実地避難訓練は、コロナ禍の影響により開催延期となったが、避難経路・消火器位置について周知し、防災意識の啓発を行った。	・安否確認・連絡網システムにおけるメールアドレス登録率は、100%を達成した。	・現在利用中の安否確認・連絡網システムは2021年9月末でサービス終了となるため、医療大が現在利用中のシステムへのリプレイスを予定 ・学生の実地避難訓練は、次年度2学年合同で実施予定。
5	学生会との連携	・学生会と頻繁に意見交換を行い、コロナ禍において学生が直面する諸問題に連携して対処した。 ・コロナ禍の影響により、学生総会を招集できず、学生の自治活動が停滞していたが、Moodleにて資料配信・議決権行使することを提案する等して、自治活動が正常に再稼動できるよう支援した。		

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】入試企画等検討委員会

【責 任 者】委員長： 八木 秀司 事務担当： 学務部

1.年間目標

(1) 入試に関するデータの分析を行い、検証する。
(2) 優秀な学生確保のための明確な選抜基準の作成
(3) 学生募集ならびに選抜方法の企画・立案を行う

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	入学者選抜方法の妥当性の検証	2021年度入試判定基準の作成および調査書評定の評価基準の作成までに入学者選抜方法の妥当性に関して追跡調査を終え、検討を行った。	予定どおりのスケジュールにて分析、検証を行い、2021年度の入学者選抜方法の検討および2022年度入学者選考要領作成に活かすことができた。	
2	2021年度入試判定基準の作成	入学者選考要領に基づき2020年10月の委員会で入試判定基準を策定し、承認された。	入試判定基準に関して 一部の訂正を行う必要が生じた。	2021年度に小論文の問題作成にかかる体制に関する検討を行うワーキンググループを作成し、判定基準と整合性のとれた問題作成を可能にする体制を作る。
3	2022年度入学者選考要領の作成	2022年度入学者選考要領案を作成し、2020年12月および2021年3月の委員会にて審議を行い、承認された。	2020年度中に入学者選考要領を作成した。今後、それをもとに2021年度上期中に学生募集要項の作成を行う予定である。	
4	Web出願システムの導入	2021年度学校推薦型選抜の出願（2020年11月）までにシステムを稼働した。	2020年5月からシステム構築を開始し、10月のテスト稼働で検証を行い、予定どおりに稼働した。	今後、稼働後に明らかになった課題について改善策を検討する。

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】研究医コース委員会

【責 任 者】委員長： 鈴木 敬一郎 事務担当： 学務部

1.年間目標

(1) 2021年度研究医コースの必要定員数の学生確保に向けた方策の実施
(2) OB・OG会の開催に向けた実施方法の確立

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	2021年度研究医コースの必要定員数の学生確保に向けた方策の実施	保護者へのコースの周知、在学生への募集ガイダンスの実施・研究医コースの手引きの配布・研究医コースHPの紹介を実施し、7名の申込者を確保した。	2021年度の新規申込者は7名（専門コース希望：1名、プレコース希望6名）であった。これにより、第3学年：6名、第4学年：4名、第5学年：4名、第6学年：2名の計16名が2021年4月より在籍することになり、新規(追加)募集学年の第3・4学年については文科省が求める目標数値を達成した。	第1学年に実施予定で検討していた基礎系研究室の見学会は、緊急事態宣言による登校禁止期間が6月頃まで続いたことにより、2021年度へ見送ることになった。2021年度においては、第1学年に向けた基礎系研究室見学会を上半期に実施する。
2	OB・OG会の開催に向けた実施方法の確立	新型コロナウイルス感染症の国内感染状況ならびに緊急事態宣言の発出等により、今年度の在学生と卒業生が集う会の開催は見送られた。	未達成	今後はオンライン開催も含め、感染対策も考慮した企画を引き続き検討する。

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】国際交流センター委員会

【責 任 者】委員長： 三輪 洋人 事務担当： 国際交流センター

1.年間目標

(1) 国際交流活動のさらなる発展

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	海外校への学生の派遣および留学生の受け入れ数の増加	新型コロナウイルス感染拡大に伴う交流停止により、派遣および受け入れともに増加はなかった。		新型コロナウイルス感染拡大による海外渡航の全面禁止により、状況が終息し、安全が確保されるまで交流停止となるが、今後の渡航解除の状況をみて、協定校双方合意により交流再開を目指す。
2	新規・研究留学プログラムの開始	クロアチア・リエカ大学、ブルガリア・ソフィア医科大学の研究留学プログラムは渡航準備まで整えたが、渡航直前に新型コロナウイルス感染拡大によりキャンセルとなった。	プログラム自体は始動し、準備も万端で整えていたが、直前の渡航禁止措置によりキャンセルとなった。	新型コロナウイルス感染拡大による海外渡航の全面禁止により、状況が終息し、安全が確保されるまで交流停止となるが、今後の渡航解除の状況をみて、協定校双方合意により交流再開を目指す。
3	新たな交流校の獲得	タイ・チュラロンコン大学、マレーシア・マラヤ大学との学術交流について、双方より合意を得た。	協定締結の合意済みだが、調印は未実施。	現地居住環境や教育・学術レベルの確認、および学術協定書調印のため現地視察が必要となるが、新型コロナウイルスの感染拡大により、視察時期は終息後を予定。
4	交流校の語学要件引き上げに伴う学生の語学力の向上	医療英会話研修は留学プログラム停止と密環境回避のため中止となった。代わりにオンライン英会話トレーニングを導入、学生個々のレベルに合わせた学習法を紹介し、相談に対応。ただし、英語を苦手とする学生が多く、語学要件を満たす力を備えるには低学年からの学習時間の確保と継続が必要。	医療英会話研修の実施は状況によりキャンセルとなった。また、留学プログラムの停止により学生応募も無しとなった。	学生の語学レベルがそれぞれ異なるため、また、感染予防のため、一斉授業より個別トレーニングが適当であり、今後も学習相談や個別のフォローアップを行いながら継続を促していく。

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】情報メディア委員会

【責 任 者】委員長： 三輪 洋人 事務担当： 学務部

1.年間目標

- (1) ICT化への対応（講義資料の電子化のためのガイドラインの策定）
- (2) オンライン教育への対応（オンライン講義のサポート、講義収録サーバの更新、講義資料の電子化のためのガイドラインの策定）
- (3) 視聴覚機器装置の設置・更新（講義収録サーバの更新）

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	オンライン講義のサポート	コロナ禍により4月から6月の座学講義がオンライン講義となったが、Moodleによるオンデマンド講義配信や教員作成のコンテンツ配信、小テスト・レポートを課して対応を行った。 7月以降についても研究医コース学生及び依頼のあったコンテンツについては同様の対応を行った。	前年度までの再利用も含め年間で3,181件の動画を配信し、139,384件の視聴アクセス、678件の小テスト・レポートを作成した。 （7月までの新規対応は1,014件の動画、112,571件のアクセス、小テスト・レポート182件） また、TBL形式の講義66コマについて講義中のサポートを行った。	今後も学年講義室で行われる座学講義については収録を行い、研究医コース学生及び依頼のあった講義についてMoodleによるオンデマンド配信を行う。 また、TBL講義などの技術的サポートについても引き続き行う。
2	講義収録サーバの更新	オンライン講義の需要増加に伴い一部計画の前倒しをして講義収録（1期）と講義配信（2期）に分けた。1期について大学情報機器整備費（遠隔授業活用推進）補助金を活用し2021年3月に機器更新を行った。 また、2期について教務委員会で要望を確認し、情報センターと仕様を作成し予算立てを行った。	年度内に講義収録サーバ（1期）の更新（13,992千円；補助額6,751千円）を完了し、2021年度より更新したシステムでの収録を開始している。 講義配信（2期）については講義収録システム更新として情報センターより2021年度予算が認められている。	講義配信（2期）について2021年度中に更新予定であり、より高品質でかつ、社会情勢の変化にも影響を受けにくい遠隔講義に対応できる環境構築をすすめる。
3	講義資料の電子化のためのガイドラインの策定	ガイドラインの策定を行い、LMS(Moodle)を活用して教員に周知を行った。	教員からの問い合わせにも対応し、滞りなく運用できている。 また、本学の方針に合わせて一部更新を行った。	今後も本学の方針と運用に合わせてガイドラインの更新を行っていく。

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】図書館委員会

【責 任 者】委員長： 島 正之 事務担当： 学務部

1.年間目標

(1) 図書館のサービスレベル向上
(2) 計画的な図書及び図書資料等の購入
(3) 図書館蔵書管理

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	学生及び教職員を含めた図書館利用者サービスの検討、実施	新型コロナ感染拡大防止のための業務等の制限により、図書館についても短縮開館や閉館する事態となり、今年度の開館日数は例年よりも少なくなったが、郵送による貸し出しやメールによる予約取り置き等、対応可能なサービスを検討し実施した。また感染拡大防止の為の運営方法を検討し図書館各所へのアルコール設置や返却図書の消毒など感染拡大防止の対応に努めた。	4月中旬～6月初旬は閉館となったがそれ以降は短縮開館や土日閉館など一部の制限を行った状態で運営を行いキャレル等の自修スペースについても利用可能とした。閉館中の郵送による貸し出し対応は早期に検討、5月中旬には実施に至った。登校制限解除後には一定の制限のもとで開館したが、法人全体の業務制限等もあり学生等利用者の要望に完全に応えることは難しい状況であった。	今後も大学全体の方針に基づき、運営を行う予定であるが、土日開館の対応については学生からの要望等も確認しながら引き続き検討を行う。
2	図書、電子ジャーナル、データベース等の購入計画の策定と実施	図書購入については利用者の要望等を含め購入計画を策定し購入に至った。電子ジャーナルについては業者からの見積金額を比較、検討することでより安価な予算執行を実施することができた。	図書購入については4回に分けて購入計画を策定し予定どおりのスケジュールで実施した。また、電子ジャーナルについても予定通りのスケジュールで検討を行い予算執行に至った。	
3	図書館蔵書点検の実施	図書館の一部エリアを閉鎖しつつも自修スペースを確保して実施した。利用者が少ない3月末に実施したことで利用者への影響は最小限に抑えることができた。	3月23日～25日にかけて図書館に配架している31,169冊の図書等について蔵書点検を実施し予定どおり完了した。実施にあたり運用方法の改善を行ったことで例年よりも短期間で効率的に実施することができた。	

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】大学院委員会

【責 任 者】委員長： 小山 英則 事務担当： 学務部

1.年間目標

- (1) 学位取得率（第4学年および留年生）の向上について
- (2) 特別講義・共通講義の見直し
- (3) 大学院入学者増加に向けた取り組み

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	学位取得率の向上	在籍者（留年除く）と2019年度早期学位取得者を合わせた42名の内、学位取得者は27名、取得率は64.3%となり目標値50%および、前年度の取得率62.2%を上回る結果となった。	達成	
2	留年生の学位取得率の向上	留年生46名の内、学位取得者20名、取得率は43.4%となり目標値40%（18名）を上回る結果となった。	達成	
3	特別講義・共通講義の見直し	特別講義、共通コースの再編は完了。再編後の共通コースは7月以降順次、実施予定。 また、共通講義については、学則改正を行い、オンライン講義も可能となった。	達成	
4	大学院入学者増加に向けた取り組み	大学院入学者については、コロナ禍にあって留学生の受験生が皆無であったこと等により、2021年度入学者は42名と目標値54名を下回った。	未達成	特別講義などの学術的講演をレジデント・研修医等大学院進学対象となる者に対して広報し、より大学院進学への意識づけを行う。医学会学術講演会での院生の発表や、大学院学術賞などを広く周知し、大学院生のステータス向上を目指す。なお、今年度は研究医コース卒業者についての、大学院進学の可能性を模索するため、動向調査についても検討を行う。

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】医療人育成研修センター運営委員会

【責任者】委員長：鈴木 敬一郎

事務担当：医療人育成課

1.年間目標

(1) 手術看護分野認定看護師教育課程受講生確保にかかる看護師特定行為研修付加による課程改編ならびに看護師特定行為研修課程の応募者拡充のためコース設定の改訂
(2) 臨床研修医のたすきがけプログラム見直しと定員数の適正化に基づく新たな研修プログラムの構築

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	手術看護分野認定看護師教育課程の看護師特定行為研修付加による課程改編	予定通り遂行できた。	100%の達成率である。	次年度以降も受講者のニーズに即応出来るようPRに努め、さらなる応募者拡大を図る。
2	看護師特定行為研修課程応募者拡充のためコース設定改訂	予定通り遂行できた。	100%の達成率である。	応募者拡充のため、同様の取り組みを継続予定する。
3	臨床研修医のたすきがけプログラム見直しと定員数適正化に基づく新研修プログラム「協力型研修病院・大学プログラム」構築	予定通り遂行できた。	100%の達成率である。	新研修プログラム「協力型研修病院・大学プログラム」は、2019年12月時点で8医療機関であったが、連携病院の会参加医療機関に働きかけをの結果、2022年度からは11医療機関体制となる。

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】前期研修管理委員会

【責 任 者】委員長： 池内浩基 事務担当： 医療人育成課

1.年間目標

(1) 医師に求められる基本的・総合的な診療能力を身につける。
(2) 医師としてふさわしい倫理観・態度を身に着ける。
(3) 新しい知識を積極的に吸収し、日常の診療に結びつける努力をする。
(4) チーム医療を理解する。

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	ローテーション方式による研修	予定通り遂行できた。	100%の達成率である。	次年度も同様に行う。
2	接遇やハラスメントに関する研修会	前期研修医には必須としており、全員の研修会の参加または。Webでの聴講ができた。	100%の達成率である。	次年度も100%の達成を目標とする。
3	各診療科でのカンファレンスや地域の講演会への参加	各診療科でのカンファレンスは問題なく参加できている。ただ、講演会はコロナ感染症のために中止となった講演会も多かった。	カンファレンスの参加は問題なくできほぼ100%の達成率である。一方講演会の参加に関しては実態が把握できていない。	コロナの終息状況にもよるが、講演会の参加もwebも含めて積極的に参加するように指導したい。
4	他職種とのカンファレンスへの参加	多人数でのカンファレンスを中止としていたためほとんど達成できていない。	2020年4月以降はほぼ0%である。	今年度は感染症のために密とな他職種とのカンファレンスは中止としていた。感染症の終息状況を見ながら再開したい。

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】後期研修管理委員会

【責 任 者】委員長： 池内浩基 事務担当： 医療人育成課

1.年間目標

(1) 問題対応・解決能力の向上
(2) 安全管理能力の向上
(3) 症例提示能力の向上
(4) 地域連携の重要性を理解

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	臨床研究や治験に関するセミナーへの参加	web中心の参加であるが、ある程度参加できた。	後期研修医の場合、外病院との入れ替えも多く、達成状況を数値で示すことは困難である。	できるだけ多くの後期研修医が参加するように引き続き指導していく。
2	医療安全関連のセミナーへの参加	医療安全関連のセミナーは必須となっているため100%の達成率である。	100%の達成率である。	引き続き100%の達成率を目指したい。
3	学会での発表	ほとんどwebでの学会となったため、出張命令書を発行していなかったため実数を把握できなかった。	左記のとおりで、数値を示すことはできない。	今後も後期研修医全員が学会で発表できるように指導していきたい。
4	地域連携の会への参加	地域医療連携の会も、コロナ感染症のため本年度はすべてが中止となった。	左記の通りで達成率は0%である。	コロナ感染症の終息状況にもよるが、再開され次第、積極的に参加させたい。

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】ささやま医療センター教育・研修委員会

【責 任 者】委員長： 片山 寛 事務担当： 篠山キャンパス事務部

1.年間目標

(1) 全職員（全従業員）を対象とした、医療安全、感染対策に係る講習の計画と実行
(2) 魅力ある学生実習と卒後研修の実施

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	医療安全講習の全職員受講	● 2回の講習会を開催 ・ 7月「安心な中心静脈穿刺を目指して」 ・ 2月「その使い方で大丈夫? 医療ガスの安全な使用方法」 ● 感染対策の観点から「ナーシングスキル」を活用した動画閲覧での参加とし、非常勤職員、途中入職者へも積極的に案内を行う。また、各部署のS Mを通して閲覧を促し全体の95.4%の受講率となった。（非常勤、ローテーション職員、休業職員は対象外、途中入職者対象）委託業者にも講習会、補講のアナウンスを行った。	全職員対象100% → 95.4%	昨年度より講演会の開催回数を2回としたため全てに参加しなければ受講率達成にならない。そのため、未受講者宛に通知を行い受講率の向上に繋げたが、第2回の講演会が年度末となったため視聴期間が短期間となり、参加率の低下につながった。講演会が年度末とならないよう計画と準備を行う。
2	感染対策講習の全職員受講	● 1回の講習会、クリーンハンドキャンペーンを開催 ・ 4月「新型コロナウイルス感染症とその対策について」 ● 感染拡大防止のためナーシングスキルを活用し、動画閲覧にて実施し補講可能。委託業者にも当日、補講日の案内をし、受講を周知した。	全職員対象100% → 83.7%	講演会、クリーンハンドキャンペーンの全てに参加しなければ受講率達成にならない。そのため、受講を促す通知を数回行い受講率の向上に繋げたが、全職員受講に至らなかった。感染拡大防止のため引き続きナーシングスキルを活用し動画閲覧にて実施を行い、各部署を通じて未受講者宛に通知も行い受講率アップを目標とする。
3	医薬品、医療機器安全講習会の開催（実施数増）	・ 医薬品安全講習会: 0回 ・ 医療機器安全講習会: 0回 ・ ME勉強会: 24回	各講習会研修会年10回以上開催 → 合計24回開催	新型コロナウイルスの影響から業者を講師とした講習会が行えず、医薬品、医療機器安全講習会が開催できなかった。医療安全講習会と同じく、動画講義での講習会を検討する。

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
4	学生教育（実習）の充実	● 学生教育（実習）の充実（医学部） ・ポリクリ学生（5年）：114名 ・早期学生（1年）：12名 ・クリクラ学生（5年）：5名 ・地域学生（2年）：5名 （医療大） ・看護師：0名 ・薬剤師：2名 ・理学療法士：104名 ※見学者含む ・作業療法士：8名 ● 実習環境の整備・充実 ・宿舎建替え（ポリクリ） ・病棟回診 ・当直実習の形成的評価 ・特定健診、3分間ラーニングを用いた患者への指導 ・健康長寿教室でのスライド作成/発表 ・出前講座へ参加（クリクラ） ・老健回診 ・特定健診 ・訪問診療	医学部・医療大と協働で年度実施 →・医学部：合計136名受入 ・医療大：合計114名受入 医学部・医療大と協働で年度実施 →学生アンケートより 「地域の医療をAI問診や患者さんと接することで理解を深めることができました」 「地域医療と大学病院での医療のあり方の違いを肌で感じることもできた」 「訪問診療を通して地域医療への理解が深まった」 等のコメントをいただいた。	今年度は新型コロナウイルスの影響から実習を見合わせた時期もあった。 以下については継続して実施する。 ・宿舎清潔維持のため清掃徹底 ・特定検診への参加 ・経験省察研修録（ポートフォリオ）評価導入 ・入院症例検討会 ・総合診療勉強会開催 ・リハビリ ディスカッション実習 ・退院調整・認知症ケア/病棟実習 ・日直、宿直実習の参加 ・発熱外来対応、ワクチン接種の補助
5	卒後教育（初期・後期）研修の充実	● 臨床研修医の受入 兵庫医科大学病院 …38名 神戸市立医療センター西市民病院 …5名 姫路赤十字病院 …1名 ● 研修内容の充実 外来研修枠の増設と指導医体制の確立 訪問診療への同行研修を開始 画像診断カンファの開始	初期の地域医療研修の受入数：43名／年 →44名の受入	研修内容を充実させることができた。引き続き地域医療における研修内容を充実させていく。

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】倫理審査委員会

【責 任 者】委員長： 廣瀬 宗孝 事務担当： 学務部

1.年間目標

(1) 倫理指針に即した適切な委員会の運営及び審査の質の維持
(2) 研究者等に対する教育・研修の機会提供による研究倫理知識修得と意識醸成

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	倫理審査委員会の定期的開催	達成	毎月1回、年11回開催開催した。 (4月はコロナの影響で休会)	
2	倫理審査委員及び事務に従事する者の教育・研修受講の徹底	達成	2021年2月20日（土）に実施した。	
3	研究者等に対する研究倫理に関する講習会の開催	達成	2021年3月30日（火）よりweb配信を行った。	

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】先端医学研究所運営委員会

【責 任 者】委員長： 吉村 紳一 事務担当： 学務部

1.年間目標

(1) 先端医学セミナーの開催

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	先端医学セミナーの開催	2020年11月4日WEB開催にて実施済み	100%	

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】共同利用研究施設運営委員会

【責 任 者】委員長： 中込 隆之 事務担当： 学務部

1.年間目標

(1) 研究：いつでも安心して利用できる研究機器環境を整備し、大学の研究活動を支援する。
(2) 施設：共同利用研究施設の研究機器の整備を推進する。
(3) 組織：共同で機器を利用できる共同利用研究施設の組織運営について検討し、利用しやすい研究環境を提供する。
(4) 教育：大学院生に対し、実験の基礎知識や技術について講義および実習を実施することで大学院教育の充実に貢献する。

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	次年度予算案の立案 (経常費、設備機器費)	2021年度共同利用研究施設経常費が承認された。また、設備機器費については希望調査を行い、緊急性および重要性を鑑みて順位付を行い、運営委員会からすべての設備機器を要望することとなった。	10月に開催された運営委員会において、次年度予算案（経常費、設備機器費）が承認された。2021年度設備機器として計上予定としていたが、2020年度競争的資金間接経費での購入に変更となり、結果的に上位3点が設置された。	
2	設備機器更新計画の策定	更新が必要な高額機器をリストアップし、設備機器更新計画案として、ユーザーミーティング、合同代表者会での意見を集約した。そして、運営委員会において設備機器更新計画（2022年度、2023年度）が承認された。	10月に開催された運営委員会で2022年度、2023年度における設備機器更新計画が承認され、この計画に基づき申請準備を進めることとなった。	
3	利用者への技術支援 および設備機器の利用促進	研究技術課スタッフが講師となり、実験手技や機器操作を中心とした実験技術講習会（凍結切片組織標本作製、蛍光倒立顕微鏡操作、セルソーター関連）が開催された。また、設備の利用促進のため、技術講習会（セルソーターの終了操作説明）が開催された。	3月に共同研運営委員会委員に対して、講習会の概要について報告された。	
4	大学院教育（コースワーク）の実施	大学院1学年共通コースとして共同研オリエンテーション（講義、施設見学）が7月に、2学年共通コースとして研究技術講習会が8月に5回開催された。いずれも、大学院生に必要な実験の基礎知識や技術について講義および実習が実施された。	6月に開催された持ち回り委員会で共同研オリエンテーション、研究技術講習会の開催案が承認され、7～8月に開催された。そして、開催後の受講生のアンケート結果が10月の運営委員会で報告された。	

2020年度委員会計画達成状況調査票

【委員会名】動物実験委員会

【責 任 者】委員長： 中込 隆之 事務担当： 学務部

1.年間目標

- | |
|---|
| (1) 本学で実施する全ての動物実験について、事前に、その実験計画が本学規程及び関係法令に適合しているかを審査し、その結果を学長に報告する。 |
| (2) 学長の委任により、動物実験実施者及び実験動物の飼養者に対して、法令等、本学の定める規程等、動物実験の方法及び実験動物の取扱に関する事項、実験動物の飼養保管に関する事項、安全確保、安全管理に関する事項、施設等の利用に関する事項、人獣共通感染症に関する事項、その他、適切な動物実験等の実施に関する事項の知識を習得するための教育訓練を実施する。 |
| (3) 動物実験等に関する諸事項について、体制等の整備状況及び当該年度の実施状況等を自己点検・評価し、その結果を情報公開する。 |
| (4) その他、動物実験に関する必要事項等を実施する。 |

2.年間計画

	計画名	達成状況	達成数値・指標結果	進捗遅延内容と今後の対応
1	動物実験計画の審査	計画通り実施	申請された全ての実験計画（新規75件他、変更申請）を審査。	
2	動物実験に関する教育訓練	計画通り実施	研究者受講管理システムを利用したWeb講習を随時実施し、計49名が受講。	
3	自己点検・評価（2019年度）	計画通り実施	2019年度の「動物実験に関する自己点検・評価報告書」を作成。	
4	情報の公開	計画通り実施	自己点検報告書、委員会の活動状況、飼養匹数、改正規程を公開。	
5	施設等の整備状況の調査、点検	計画通り実施	飼養保管施設（6件）の管理状況を確認。	
6	実験動物慰霊祭	計画通り実施	多くの学生・研究者等が参加し、厳かに挙行された。	
7	動物実験計画の申請内容等の見直し	計画通り実施	遺伝子組換え実験安全委員会と連動し、遺伝子組換えマウスの系統登録基準を検討し、改善した。（2020/10/30改正）	
8	兵庫医科大学、兵庫医療大学統合への準備	一部実施	兵庫医療大学の動物実験に関する規程等を確認の上、検討事項を教員組織部会研究ワーキンググループに提出した。	規程等の改正の是非については、教員組織部会研究ワーキンググループの検討内容に準じ、検討予定。

第4章

2021年度 事業計画・重点課題・各委員会の目標

(1) 2021年度 学校法人兵庫医科大学事業計画《重点施策》

※2021年度 学校法人兵庫医科大学事業計画《重点施策》より抜粋

2021年度 学校法人兵庫医科大学事業計画

※2021年度 学校法人兵庫医科大学事業計画より抜粋

(2) 2021年度 兵庫医科大学重点課題一覧

(3) 年度目標の設定該当委員会等一覧

(4) 2021年度 各委員会目標・計画調査票

2021年度 学校法人兵庫医科大学事業計画《重点施策》

部門	兵庫医科大学	事業No	3
事業計画名	2 大学統合に向けての認可申請及び各種準備		
対応する中期事業計画の施策名	医科大学と医療大学の統合による新たな医系総合大学の創出		

■ 事業目標

1. 2大学統合に向け、文部科学省への認可申請及び認可を確実に取得する
2. 2022年4月の新たな医療総合大学のスタートに向けての各種企画の立案と施策を実行する。

■ 事業の主な内容

1. 文部科学省への認可申請
2. 2022年4月の統合にむけての準備
 - (1) 大学統合準備委員会及び教員組織部会、入試・広報部会、教務部会、管理部会の確実な運用支援及び部会からの案件の実施
 - (2) UI（ユニバーシティ・アイデンティティ）開発とその後のコミュニケーション戦略の立案と実行
 - (3) 新大学Webサイトの構築

■ 具体的アクションとその概要

No	大項目内容	概要
1	文部科学省への統合に係る認可申請に関するスケジュール	① 2020年10月 事前相談（事前申請書類提出） ② 2021年 3月 本申請 ③ 2021年 4月 学生確保書面審査（学部、大学院） ④ 2021年 6月 追加書類提出 ⑤ 2021年 7月 財務書類審査 ⑥ 2021年 8月 認可（予定）
2	2022年4月の統合にむけての準備	(1) 大学統合準備委員会及び教員組織部会、入試・広報部会、教務部会、管理部会の確実な運用支援及び部会からの案件の該当部門と協力して実施 （下記：主な検討課題） ① 教員組織部会（部会長：兵庫医科大学学長） ＜統合に伴う大学組織運営の安定化と発展につなげる＞ ・ 大学の理念、目的に基づく、大学として求める教員像の点検 ・ 教員人事・組織関連の各種方針・規程の点検・改正及び教員の募集、採用、昇任等の手続きの整備 ・ 新組織運営の運用面での課題の洗い出しと調整 ② 入試・広報部会（部会長：藤岡兵庫医療大学学長） ＜大学統合のメリットを広報し、学生募集につなげる＞ ・ 2022年度の入試への対応、マーケティング戦略を参考にした入試広報の実施 ・ 大学案内の制作：4学部合冊（2022年5月上旬完成） ・ 入試、オープンキャンパスなど運用面での課題の洗い出しと調整 ③ 教務部会（部会長：鈴木兵庫医科大学副学長） ＜教育の特徴の顕在化を図るとともに、学生支援などの統合を推進する＞ ・ 新学則に係る教学面等での規程整備と運用面での課題の洗い出しと調整 ・ 卒後教育体制の検討 ・ 学生支援、国際交流等の点検・整備 ・ 内部質保証体制の検討（大学・各学部）

No	大項目内容	概要
		④ 管理部会（部会長：松村理事） ＜上記3部会以外の各種整備を行い、各種運用の安定化を図る＞ ・ サイン等掲示物の統一 ・ 法人・総務関連を中心とする諸規程整備と運用面での課題の洗い出しと調整 (2) UI開発とその後のコミュニケーション戦略の立案と実行 ・ インナー広報（学内向け）：UI説明会等の企画と実施 ・ UI浸透のための企画・ツール等の制作（学内外向け） 50周年企画との連動 (3) 新大学Webサイトの構築 ・ 広報課を中心とした全事務部門参画してのWebサイト制作 （2022年4月までに完成）

部門	兵庫医科大学	事業No	5
事業計画名	競争的資金の組織的獲得推進施策の継続		
対応する中期事業計画の施策名	競争的資金獲得に向けた組織的取り組みの強化		

■ 事業目標

学長主導の研究推進・支援体制下による組織的な競争的資金獲得支援策を継続し、大学全体での競争的資金獲得増を図る。

(数値目標)

科研費新規申請件数（奨励研究・研究活動スタート支援不含）および採択率

*：申請率の分母は在籍者数・次年度継続課題保有者数

■ 新規申請件数（人数）

	2018申請		2019申請		2020申請		2021目標	
職位別	件数	申請率*	件数	申請率*	件数	申請率*	件数	申請率*
講師以上	99	53.5%	113	63.5%	138	68.1%	137	70%
助教	55	32.5%	82	45.8%	90	47.6%	93	50%
計	154	43.5%	195	54.6%	228	57.9%	230	60%

■ 新規採択率（採択件数率）

	2019実績 (2018申請)	2020実績 (2019申請)	2021目標 (2020申請)
申請件数	184	233	***
採択件数	40	40	***
採択率	21.7%	17.2%	20%

■ 事業の主な内容

- (1) 科研費申請及び獲得推進のための各種具体的施策の継続実施
- (2) AMED委託研究開発課題他競争的資金等獲得支援策の継続実施
- (3) その他公募型研究資金、共同・受託研究による企業資金等獲得支援策の継続実施
- (4) 科研費（代表）間接経費獲得額に応じた所属講座へのインセンティブ制度導入

■ 具体的アクションとその概要

No	大項目内容	概要
1	科研費申請及び獲得推進のための各種具体的施策の継続実施	昨年度に引き続き、下記の取り組みを行う。 1) 兵庫医科大学研究推進ワーキンググループ（研究推進WG）による以下の実施 ① 科研費採択向上を図るための学内セミナー開催 ② 研究計画レビュー又は計画書作成サポート 2) 学長による各講座ヒアリングの実施
2	AMED委託研究開発課題他競争的資金等獲得支援策の継続実施	URAを主として研究協力課と連携の上、公募情報の収集・発信、申請支援を行う。 ① 公募情報等の収集・学内発信、事業に適合する可能性のある教員への個別アプローチ ② 学内研究者間のマッチング、打合せ・ヒアリング等への立ち会い、申請関係資料の作成支援
3	その他公募型研究資金、共同・受託研究による企業資金等獲得支援策の継続実施	継続的活動として、引き続きURAを中心に以下の活動を行う。 ① 各種研究資金公募情報の収集・学内発信、適合者への個別アプローチ ② 企業等産業界とのマッチングによる共同研究組成・推進支援（適宜打合せ等への立ち会い、プレゼン資料等の作成支援の実施）
4	科研費（代表）間接経費獲得額に応じた所属講座へのインセンティブ制度導入	科研費等競争的資金申請時の申請者の研究力の裏付けとなる実績（業績）補強に活用可能な研究資金として、科研費間接経費（代表分）の30%相当の配分研究費を予算として計上し、当該年度の科研費間接経費獲得額に応じて、当該研究者の所属講座に対して、当該間接経費獲得額の30%をインセンティブとして配分し、各講座の研究力の底上げ、モチベーション向上を図る。

2021年度 学校法人兵庫医科大学事業計画

部門	兵庫医科大学	事業No	14
事業計画名	医学教育分野別評価 2021年度受審		
対応する中期事業計画の施策名	問題解決能力の向上を目指した教育体制の充実		

■ 事業目標

【医学教育分野別評価 2021年度受審、認定】

- ・ 高等教育機関として、大学が社会の要請に応えることのできる人材を教育し、排出していることを証明し、社会の信頼を得ること。
- ・ 特に国民の健康を維持し、促進する重要な役目を担う医師を育成する大学医学部では医師にとって必要な知識、態度、技能を適正に教育していることを保証し、社会に示さなければならない。
- ・ 医学教育分野別評価を受審し、認定を受けることは本学にとって必須である

■ 事業の主な内容

新型コロナの感染拡大のため、2020年7月に予定していた実地調査が延期となり、2021年5/31-6/4となったことから、その対応準備を行う

- (1) 一旦完成させた自己点検・評価報告書を2021年1月までに修正及び根拠資料の整備
- (2) 5月31日～6月4日：実地調査（予定：5/31 評価者大阪入り、6/1 9時 開会式～6/4 AM 閉会式）

※以降凡その予定

10月：JACMEから評価報告書案到着

11月：JACMEへ評価報告書案への意見返信

2022年4月から7年間の認定

■ 具体的アクションとその概要

No	大項目内容	概要
1	医学教育分野別評価 2021年度受審、認定までのスケジュール	(1) 実地調査が延期となったことから、一旦完成させた自己点検・評価報告書を2021年1月までに修正し、根拠資料を全て整備し直す (2) 2月10日までにJACME（日本医学教育評価機構）に自己点検・評価報告書提出 (3) 2月22日：JACMEから修正指示 (4) 3月15日：自己点検・評価報告書 & 資料を送付（最終版） (5) 4月30日：評価者から質問書到着 (6) 5月19日：回答書送付 (7) 5月31日～6月4日：実地調査 （予定：5/31 評価者大阪入り、6/1 9時 開会式～6/4 AM 閉会式） ※以降凡その予定 10月：JACMEから評価報告書案到着 11月：JACMEへ評価報告書案への意見返信 2022年4月から7年間の認定

部門	兵庫医科大学	事業No	15
事業計画名	ウィズコロナ期における環境変化に即応可能な教育体制の確立		
対応する中期事業計画の施策名	問題解決能力の向上を目指した教育体制の充実		

■ 事業目標

有事における社会活動の制限下にも教育の質を担保するため、当面継続すると見られる新型コロナウイルス感染の拡大リスクをはじめ、新たな感染症の蔓延やその他環境の急変にも即応し、対面／遠隔の即時切替又はその併用による授業実施体制・環境を整備・確立する。

■ 事業の主な内容

- (1) 全講義収録及び即時配信可能な講義収録配信システムの構築
- (2) 環境の変化に即応したカリキュラム調整とともに対面授業、遠隔（オンライン）授業又は併用（ハイブリッド）授業の実施
- (3) WEBコミュニケーション・ツールを活用したオンライン双方向授業方式の定型化と拡大
- (4) 同上ツールの積極的活用による学修・生活指導の推進

■ 具体的アクションとその概要

No	大項目内容	概要
1	全講義収録及び即時配信可能な講義収録配信システムの構築	全学生を対象にオンライン授業を配信するには脆弱な学内設備を補強するため、昨年度文科省補助金制度活用によりハードを更新した講義収録サーバに引き続き、配信用サーバ及び関連ソフトウェアを整備し、全講義の収録・即時配信が可能なシステムを構築する。有事以外にも、平時の復習等自宅学修への活用も図る。
2	環境の変化に即応したカリキュラム調整とともに対面授業、遠隔（オンライン）授業又は併用（ハイブリッド）授業の実施	昨年度の経験を踏まえ、地域において再び感染拡大期に入る等、通常の対面式授業が実施できない状況が発生した際には、必要に応じて教務委員会におけるカリキュラムの適宜変更を行うとともに、（1）で構築したシステムを利用したオンデマンド配信授業や、（3）に記載の双方向オンライン方式による遠隔授業、又は対面及び遠隔の併用（ハイブリッド）方式の授業への即時切替を行い、学修の遅れを発生させない授業運営を行う。
3	WEBコミュニケーション・ツールを活用したオンライン双方向授業方式の定型化と拡大	医学教育センター所管科目において、WEBコミュニケーションツールのMicrosoft-TEAMSを利用した口頭試問やグループ討議を2020年度に試行し、学生からの評価を含め、一定の成果が見られたことから、これを定型化し、臨床実習含め他の講座等の授業にも活用の拡大を図る。
4	同上ツールの積極的活用による学修・生活指導の推進	面接方式による接触、登校時の感染リスクが発生する場合には、講義・実習等正課のみならず、学年担任、チューターによる学生の指導・相談にも同上WEBコミュニケーションツールのTEAMSやZOOM等を利用し、リスク回避の上、学修指導、厚生補導活動を行う。

2021年度兵庫医科大学重点課題

- ・With & Post コロナ時代の教育体制の構築
＜学長・鈴木副学長・石戸教務部長＞
- ・大学統合後の医学部運営体制の構築と組織改革の継続
＜学長・三輪副学長＞
- ・大学統合後の入試制度の改革、評価
＜八木入試センター長＞
- ・学部教育・国家試験対応の充実
＜石戸教務部長＞
- ・大学統合及び組織改編を見据えた臨床実習の改善
＜石戸教務部長・池内副学長＞
- ・卒後教育体制・初期臨床研修の改善と卒前教育との連携
＜阪上病院長・鈴木副学長・池内副学長＞
- ・大学院教育の改善と入学者増などの活性化
＜小山副学長＞
- ・研究活動の活性化と外部研究資金獲得に向けた対策
＜小山副学長＞
- ・教員任期制・教員評価などの制度改革とその実行
＜学長＞
- ・50周年事業の遂行と卒業生／在学生の帰属意識の向上
＜学長・長谷川学生部長・池内副学長＞

委員会の年度目標の設定該当委員会等(2021年度)

No	会議・委員会等	委員長等	領域	事務
1	兵庫医科大学 学修成果作成委員会	成瀬 均	教育	学務部
2	兵庫医科大学 カリキュラム評価委員会	鈴木 敬一郎	教育	学務部
3	兵庫医科大学 カリキュラム委員会	石戸 聡	教育	学務部
4	兵庫医科大学教務委員会	石戸 聡	教育	学務部
5	兵庫医科大学学生部委員会	長谷川 誠紀	学生支援	学務部
6	兵庫医科大学入試企画等検討委員会	八木 秀司	入試	学務部
7	兵庫医科大学研究医コース委員会	鈴木 敬一郎	教育	学務部
8	兵庫医科大学国際交流センター委員会	三輪 洋人	国際交流	学務部
9	兵庫医科大学情報メディア委員会	三輪 洋人	教育	学務部
10	兵庫医科大学図書館委員会	島 正之	教育	学務部
11	兵庫医科大学大学院委員会	小山 英則	大学院	学務部
12	学校法人兵庫医科大学医療人育成研修センター運営委員会	鈴木 敬一郎	教育・臨床	医療人育成課
13	兵庫医科大学病院前期研修管理委員会	池内 浩基	教育	医療人育成課
14	兵庫医科大学病院後期研修管理委員会	池内 浩基	教育	医療人育成課
15	兵庫医科大学ささやま医療センター教育・研修委員会	片山 覚	教育・臨床	篠山キャンパス事務部
16	兵庫医科大学倫理審査委員会	廣瀬 宗孝	倫理	学務部
17	先端医学研究所運営委員会	吉村 紳一	研究	学務部
18	共同利用研究施設運営委員会	中込 隆之	研究	学務部
19	兵庫医科大学動物実験委員会	中込 隆之	倫理・研究	学務部

2021年度 学修成果作成委員会 目標・計画

委員会名：学修成果作成委員会

責任者（委員長等）：成瀬 均

1.年間目標

(1) 使命ならびに学修成果の教員・学生への浸透度を高める。
(2) 学修成果の達成状況を検討し、改善を行う。

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	使命と学修成果の教員・学生への浸透（ミッションカード携行を通して）	教育力向上セミナー・講義・オリエンテーション等の機会を利用して使命と学修成果の周知、ミッションカード携行を促す。 [学生向け施策]昨年度から引き続き、ミッションカードを学生証とセットで常に携行させる習慣を身につけさせるべく周知を行う。各講義内での携行チェックも定期的に行う。 [教員向け施策]教育力向上セミナーで学修成果の周知とミッションカード携行の呼びかけを行う。各講義内での携行チェックを定期的に行うことで教員側の意識の向上も計る。	ミッションカード携行率：教員・学生ともに80%を目指す。
(2)	学修成果の改善	カリキュラム評価委員会からの学修成果達成度の点検・評価結果報告に基づき、学修成果を改善する。 また、兵庫医療大学との大学統合を見据えた学修成果の改善を行う。	・カリキュラム評価委員会の評価結果において、学修成果自体の改善が必要と認められる項目の改善有無 ・大学統合を見据えた学修成果の改善有無 以上2点を指標とする。

2021年度 カリキュラム評価委員会 目標・計画

委員会名： カリキュラム評価委員会

責任者（委員長等）： 鈴木 敬一郎

1.年間目標

- (1) IR情報を中心とした各種データに基づき本学教育カリキュラムの検証・評価を行う。
- (2) (1) の結果を踏まえ、改善に向けてその結果を関連委員会等に報告する。

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	2021年度カリキュラム実施結果の点検・評価	(学修成果到達調査結果をもとに) 現行のカリキュラムが適切であるかを評価・点検する。	年次報告書の作成
(2)	コロナウイルスの影響により変更したカリキュラムの点検・評価	新型コロナウイルスの影響により変更したカリキュラム（講義動画配信・web試験等）が適切であったかを評価・点検する。	学生の修学状況の調査
(3)	カリキュラムの検証項目の洗い出し	カリキュラムの検証体制を整えるとともに、検証に必要なIR情報の作成・提供を依頼する。	IR室への要望書の作成
(4)	現行のカリキュラムの改善案の提言	外部評価の指摘事項をふまえた評価・点検を行い、改善案を提言する。	関連委員会への提言

2021年度 カリキュラム委員会 目標・計画

委員会名： カリキュラム委員会

責任者（委員長等）： 鈴木 敬一郎

1.年間目標

- (1) ディプロマ・ポリシーを踏まえたカリキュラム・ポリシーの改善について意見を集約し、反映する。
- (2) カリキュラム評価委員会の意見を踏まえ、次年度カリキュラムの改善案を検討する。

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	カリキュラム・ポリシーの点検・評価・改善	カリキュラムポリシーを点検し見直す。	2022年度カリキュラム作成開始までにポリシーの検討終了
(2)	国際基準に合致したカリキュラムの作成	ディプロマ・ポリシー、学修成果、カリキュラム・ポリシーおよびカリキュラム評価委員会からの提言を踏まえてカリキュラムの改善を行う。	臨床実習72週のカリキュラム作成

2021年度 教務委員会 目標・計画

委員会名： 教務委員会

責任者（委員長等）： 石 戸 聡

1.年間目標

(1) 学部教育の充実
(2) 医師国家試験対策の強化
(3) With & Post コロナ時代の教育体制の構築

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	カリキュラムの充実	- 医学教育分野別認証の受審を踏まえ、国際規準に合致したカリキュラムへの改革 - 本学の医学教育の信頼性を検証するため、各授業科目の評価について、再試験該当状況、科目改善アンケート結果、科目別GPAならびに各種IR情報等を用いて検証し、教育改善を推進	- 国際基準である「72週」の臨床実習カリキュラムへの移行にむけての改編を進める。 - カリキュラムの点検・評価のうえ改善を図る。
(2)	医師国家試験の対策	- 臓器別模擬試験および特別補習（合宿／セミナー形式）の強化・実施。必要によりTeamsやMoodle等を活用し双方向による個人指導や口頭試問の実施 - 学力別クラス編成によるきめ細かい指導に加え、留年生を対象とした特別カリキュラムの実施	近年の医師国家試験における難化傾向を鑑み、新卒合格率90%以上を目標とする。
(3)	成績不良者の対策	- GPAを活用した成績不良者の早期発見による対応の充実 - 成績不良者を対象とした補習カリキュラムの実施 - 第5学年次の成績不良者（Cクラス）への早期国試対策の強化	定員充足率1.05倍以内を目指し、留年率、退学率の低下に努める。
(4)	新型コロナウイルス（COVID-19）対応	- 対面型教育を中心とする予定であるが、感染対策は継続。感染流行状況、社会情勢や環境の変化等に即応し、カリキュラムや行動指針の変更については柔軟かつ速やかに対応 - 感染対策と教育の維持を両立するため、対面・遠隔授業または併用（ハイブリッド）授業の実施体制・環境を整備・確立	- 対面・遠隔授業または併用（ハイブリッド）授業の効果的な実施により、学力の維持・向上を目指す。 - 教育効果は、再試験該当者数や科目別GPAの前年度実績との比較等により検証する。

2021年度 学生部委員会 目標・計画

委員会名： 学生部委員会

責任者（委員長等）： 長谷川 誠紀

1.年間目標

(1) 学生支援体制の充実を図る。
(2) 課外活動再開への支援を行う。
(3) 2大学統合に係る学生部関連の諸問題に対処・解決する。
(4) 緑樹会との連携を図る。

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	学生生活の全般的な支援の充実	・ 学年担任、アドバイザー教員、医学教育センター、学生相談室、学生保健室、学生部委員会が連携して、学生生活全般の支援にあたる。 ・ 欠席調査や面談を行い、支援が必要と思われる学生の早期発見・早期対応に繋げる。	欠席調査及び個人面談については、感染拡大の状況等を勘案し、年度内に実施する。
(2)	経済的な支援の充実	・ 支援を必要とする学生へ確実に情報が行き渡るよう、周知を徹底する。 ・ 学生の希望や経済状況に応じて、最適と思われる支援制度へ繋げ、修学を支援する。	
(3)	危機管理体制の充実	・ 安否確認・連絡網システムの効果的な運用を目指し、全学生の最新の連絡先情報を収集・登録する。 ・ 避難訓練等を通じて、防火・防災への啓発を行う。	・ 安否確認・連絡網システムにおけるメールアドレス・携帯電話番号登録率100%を目指す。 ・ 避難訓練については、第1-2学年次を対象として、年度内に実施する。
(4)	課外活動再開への支援	・ With & Post コロナ時代の課外活動のあり方について検討し、段階的な課外活動再開を支援する。 ・ クラブ活動継続に際して必要な費用の補助を適宜行う。 ・ クラブ関連施設については、経年劣化やメンテナンス不足による不具合が顕在化しているため、施設整備課と調整の上、大規模修繕計画を策定し、抜本的な改善にあたる。	課外活動については、感染拡大の状況等を勘案し、可能な限り早期に再開する。
(5)	2大学統合に係る学生部関連課題の解決	・ 2大学統合に係る学生部関連の諸問題について、2大学統合教務部会、教務委員会、医療大の学生部と連携し、課題解決にあたる。 ・ 学生の自治活動や課外活動については、双方の学生会と連携し、課題解決にあたる。	2大学統合に係る学生部関連の諸問題については、実際の統合まで（可能な限り年度内）に解決する。

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(6)	緑樹会との連携	・ 50周年事業を念頭に、卒業生／在校生の帰属意識の向上と愛校心醸成を目的として、双方の交流を促進する。 ・ 各課外活動団体のOB／OG会や、緑樹会との連携のあり方を検討し、コロナ禍でも安全に確実に遂行可能な交流に取り組む。	

2021年度 入試企画等検討委員会 目標・計画

委員会名： 入試企画等検討委員会

責任者（委員長等）： 八木 秀司

1.年間目標

(1) 入試に関するデータの分析を行い、検証する
(2) 優秀な学生確保のための明確な選抜基準の作成
(3) 学生募集ならびに選抜方法の企画・立案を行う

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	入学者選抜方法の妥当性の検証	入学者選抜時の入試区分や調査書評定と入学後の進級率との比較等、追跡調査を行い、選抜方法の妥当性を検証する。	2022年度入試判定基準の作成および調査書評定の評価基準の作成までに行う。
(2)	2022年度入試判定基準の作成	入学者選考要領に従い、入試判定基準を作成する。	学校推薦型選抜開始前までに入試判定基準を作成し、その基準に従い合否判定を行う。
(3)	2023年度入学者選考要領の作成	学校推薦型選抜（一般公募、地域指定、特別選抜）、一般選抜A、一般選抜Bの要領案を作成する。	2021年度内に2023年度要領案を作成する。
(4)	小論文の適正な作問と評価方法の確立	小論文問題作成検討ワーキングを設置し、小論文の作問および評価方法に関する課題を明らかにし、今後の作問や評価の体制を強化する。	3～4回のワーキング開催で作問と評価の指標を確立し、2022年度入学者選抜で導入する。

2021年度 研究医コース委員会 目標・計画

委員会名： 研究医コース委員会

責任者（委員長等）： 鈴木 敬一郎

1.年間目標

(1) 研究医コースの必要定員数の学生確保に向けた方策の実施
(2) 研究医コースに係る自己点検評価の実施と改善に向けた検討
(3) 卒業した研究医コース学生の進路追跡調査ならびに在学生への卒業後のキャリアプランの提供

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	2022年度研究医コースの必要定員数の学生確保に向けた方策の実施	本学では研究医枠として文部科学省より2名の入学定員を確保しているが、期限付であるため、安定した人数の確保が必要となる。そのため、在学生に広く研究医コースを周知し、4名以上の新規学生数を確保する。また、低学年より研究に関心をもってもらうため、1年生向けに研究室を見学する機会を設ける。	各学年4名以上の研究医コース学生の確保
(2)	研究医コースに係る自己点検評価の実施と改善に向けた検討	卒業した研究医コース学生、在学生、関係教員に対し、研究医コースに関するアンケート調査を実施し、自己点検を行う。また、改善に向けた検討を行う。	自己点検評価と改善案の策定
(3)	卒業した研究医コース学生の進路追跡調査ならびに在学生への卒業後のキャリアプランの提供	一昨年、研究医コースから初の卒業生が輩出されたことから、卒業した研究医コース学生に対し、進路動向調査を実施する。また、在学生へ卒業後のキャリアプランの提供とコース加入の参考になるよう、卒業生と在学生との交流の場を企画検討する。	実施方法の確立

2021年度 国際交流センター委員会 目標・計画

委員会名： 国際交流センター委員会

責任者（委員長等）： 三輪 洋人

1.年間目標

新型コロナウイルス感染症の拡大により、未だ海外への渡航の見通しが立たない中、留学を含む学生の国際交流に (1) 関する具体的計画策定が困難であり、海外渡航制限緩和の状況を踏まえ、本学の国際交流の方針を決定した後、 2021年度目標及び計画を提示する。
--

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)			
(2)			
(3)			

2021年度 情報メディア委員会 目標・計画

委員会名： 情報メディア委員会

責任者（委員長等）： 三輪 洋人

1.年間目標

(1) 全講義収録及び即時配信可能な講義収録配信システムの構築
(2) 学修支援環境の拡充

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	講義収録配信システムの構築	講義収録配信システムの更新(2期目)を行い、オンデマンドでのオンライン講義対応を整備し、講義の翌業務日には学生が視聴できる体制を整える。	8月中に更新し、体制を整える
(2)	視聴覚機器更新計画の策定	With & Post コロナ時代にむけて社会情勢に影響されない医学教育を実現できるよう、中継や収録した講義の配信を見据えた学修環境構築の検討を行い、機器更新計画を策定する。	10月中に更新計画を策定する
(3)	講義支援環境の拡充	TBL形式での講義や発表会、臨床実習などMoodle(LMSシステム)を双方向通信の手段として用いたコースについて計画・機能拡充するとともに、引き続き学修支援を行う。	通年に渡り教員ニーズに合わせた学修支援を行う

2021年度 図書館委員会 目標・計画

委員会名： 図書館委員会

責任者（委員長等）： 島 正之

1.年間目標

(1) 外国雑誌の見直し実施
(2) 計画的な図書及び図書資料等の購入
(3) 図書館蔵書管理

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	外国雑誌アンケート調査実施と見直し	5年に1度実施している外国雑誌の見直しを実施する。各部署に対し図書館コア雑誌及び教室コア雑誌についてのアンケートを実施し、その結果に基づき外国雑誌の見直しを行う	上期中にアンケート実施を行い、年内に選定を行う。
(2)	図書、電子ジャーナル、データベース等の購入計画の策定と実施	利用者の要望や直近2年間に出版されたデータをもとに選定を行い計画を作成する。電子ジャーナル、データベース等については各業者の見積金額を比較し業者選定を行うことでより安価な金額での予算執行に努める。	図書購入計画については年4回に分けて実施。電子ジャーナル、データベース等は年内に選定を完了させる。
(3)	図書館蔵書点検の実施	図書館利用者が少ない3月に図書館全体の蔵書点検を実施する。利用者へは事前のアナウンスを行い、点検期間中は自修スペースの確保を行うなど利用者への影響は最小限におさえる。	実施期間は1週間以内とし2022年3月中に完了させる。

2021年度 大学院委員会 目標・計画

委員会名： 大学院委員会

責任者（委員長等）： 小山 英則

1.年間目標

(1) 学位取得率（第4学年および留年生）の向上について
(2) 大学院入学者増加に向けた取り組み
(3) 学位論文の研究倫理遵守の徹底に向けた取り組み

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	①学位取得率の向上	2020年度の学位取得率は64.3%であり、当初の目標の50%および前年度の取得率を超えることとなったが、今年度もCOVID-19の影響が考えられることから、引き続き各年5%ずつの学位取得率の向上を目指し、55%を目標とする。	今年度の学位取得率目標を55%とし第4学年22名の学位取得を目指す。（標準年限内の4年生39名）
	②留年生の学位取得率の向上	2020年度の学位取得率は43.4%であり、当初の目標の40%をクリアできた。今年度についても、5%の学位取得率の向上を目指し、45%を目標とする。	今年度の学位取得率目標を45%とし、4月時点での留年生のうち18名の学位取得を目指す（留年生38名）
(2)	大学院入学者増加に向けた取り組み	・ 特別講義などの学術的講演をレジデント・研修医等大学院進学対象となる者に対して広報し、大学院進学への意識づけを行う。医学会学術講演会での院生の発表や、大学院生学術賞などを広く周知し、大学院生のステータス向上を目指す。なお、今年度は研究医コース卒業生についての、大学院進学の可能性を模索するため、動向調査について検討を行う。また、兵庫医療大学修士課程修了者やCOVID-19収束後を見据えた留学生を獲得するための方策についても検討する。 ・ 各講座の大学院入学推進をめざした取り組みを支援する	2020年度入学者51名 2021年度入学者42名
(3)	学位論文の研究倫理遵守の徹底に向けた取り組み（倫理審査委員会との連携）	学位審査において、学位論文と倫理審査申請書、動物実験計画書との内容の整合性についての検証過程を整備する。倫理審査委員会と連携し、学位論文の研究不正撲滅に向けた大学院教育の体制とそのチェック体制を整備する。また研究倫理に関する研究者への啓蒙活動を学位論文の立場から倫理委員会に協力する。	学位審査における研究倫理遵守状況の確認課程の整備 学位論文の研究不正に関する大学院教育体制の整備

2021年度 医療人育成研修センター運営委員会 目標・計画

委員会名： 医療人育成研修センター運営委員会

責任者（委員長等）： 鈴木 敬一郎

1.年間目標

(1) 2022年度大学統合に向けて新たな多職種連携教育のあり方等を再構築し運営準備を進める。
(2) 医学部卒業時の学修成果と卒後臨床研修の到達目標との関連づけ等を検証し見直すことで卒前・卒後の一貫した教育体制構築に向けて改善を図る。
(3) 認定看護師教育課程における特定行為研修を附加した特定認定看護師養成課程への改編と既存の特定行為研修課程との連携等をすすめる受講生の安定的確保と当該課程の効率的運営の改善を図る。

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	2022年度大学統合に向けて新たな多職種連携教育のあり方等を再構築し運営準備を進める。	2022年度大学統合により現行の2大学多職種連携教育の内容が合わなくなるため、統合後の教育方針・教育目標や新教育体制に基づく新たな多職種連携教育のあり方等を2021年度に再構築して運営準備を進める。	新たな多職種連携教育のあり方を2021年度中に再構築する。
(2)	医学部卒業時の学修成果と卒後臨床研修の到達目標との関連づけ等を検証し見直すことで卒前・卒後の一貫した教育体制構築に向けて改善を図る。	臨床実習の患者アンケートと実習指導者評価や卒業時のディプロマボリシーによる学修成果に基づき、卒後の本院臨床研修医採用時選考規準や臨床研修中の到達目標との整合性を点検する等、今後の卒前・卒後一貫教育体制構築に向けて改善を図る。	卒後の本院臨床研修医採用時選考規準や臨床研修中の到達目標との整合性を2021年度中に点検する。
(3)	認定看護師教育課程における特定行為研修を附加した特定認定看護師養成課程への改編と既存の特定行為研修課程との連携等をすすめる受講生の安定的確保と当該課程の効率的運営の改善を図る。	2021年度から手術看護分野認定看護師教育課程を特定行為研修を附加した特定認定看護師養成課程へ改編することから、既存の他分野特定行為研修課程と連携して受講生の多様なニーズに対応すると共にカリキュラム重複部分の両課程一体運営等による経費縮減等を図り、受講生確保と効率的運営を図る。	定員充足100%を目指す。

2021年度 前期研修管理委員会 目標・計画

委員会名： 前期研修管理委員会

責任者（委員長等）： 池内 浩基

1.年間目標

(1) 感染対策の基本的な知識を身につける。
(2) 兵庫医科大学の職員の一人であることを自覚する。
(3) 多くの新しい知識や技術を身につけることができるよう向上心を持たせる。
(4) チーム医療を理解する。

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	感染対策に関する研修会への参加	本年度もコロナ禍での診療が続くため、新型コロナウイルスだけではなく、すべての感染症に対する対策を身につけることができるよう指導する。	前期研修医全員が理解できる
(2)	接遇やハラスメントに関する研修会への参加	兵庫医科大学の職員の一員であることを自覚するとともに、医師としての倫理観を養う。また患者さんとの接し方を学ぶ。	研修会への全員の参加
(3)	診療科でのカンファレンスや地域の講演会への積極的な参加	自分の担当患者だけでなく、現在ローテートしている診療科の多くの症例について知識を身につける。講演会は本年度はほとんどwebで行われると思われるが、これにも積極的に参加する。	研修会への全員の参加
(4)	他職種とのカンファレンスへの参加	指導医とともに他職種とのカンファレンスに積極的に参加し、チーム医療での医師の役割を理解できるようにする。	前期研修医全員が理解できる

2021年度 後期研修管理委員会 目標・計画

委員会名： 後期研修管理委員会

責任者（委員長等）： 池内 浩基

1.年間目標

(1) 安全管理能力の向上
(2) 専門領域の知識の蓄積、技術の向上
(3) 問題解決能力の向上
(4) 地域連携の重要性の理解

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	安全管理や感染対策の研修会への参加	研修参加は義務づけられており、積極的に参加し、知識を更新する。	後期研修医全員の参加
(2)	学会での発表や業者のラボでの新しい器械の操作を身につける。	専攻する診療科がほぼ決まっているため、少なくとも1回/年の学会発表を行う。また、技術を習得するため、積極的に業者のラボでの研修会にも参加する。	少なくとも年に1回の学会発表を行わせる
(3)	院内での研修会への積極的な参加	症例に対する問題解決能力だけでなく、患者とのトラブルや、職場でのトラブルに対する解決能力を養う必要がある。	後期研修医全員の参加
(4)	地域連携の会や、地域の講演会への参加	本年度はまだ、コロナ禍だえるため、対面での会の運営は困難であるが、webでの研修会等にも積極的に参加する。	後期研修医全員の参加

2021年度 ささやま医療センター教育・研修委員会 目標・計画

委員会名： ささやま医療センター教育・研修委員会 責任者（委員長等）： 片山 寛

1.年間目標

(1) 全職員（全従業員）を対象とした、医療安全、感染対策に係る講習の計画と実行
(2) 魅力ある学生実習と卒後研修の実施

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	医療安全講習の全職員受講	診療報酬の基準到達並びに職員の医療安全への意識向上を目的とし、年2回の講演会の出席、DVD補講、学内ネットでの視聴補講等をポイント化し、全職員が規定到達できるよう計画し、実施する。	全職員及び委託業者も含めた従業員の規定ポイント取得
(2)	感染対策講習の全職員受講	診療報酬の基準到達並びに職員の感染対策への意識向上を目的とし、年2回（講演会及び手洗い講習）の出席、DVD補講、学内ネットでの視聴補講等をポイント化し、全職員が規定到達できるよう計画し、実施する。	全職員及び委託業者も含めた従業員の規定ポイント取得
(3)	医薬品、医療機器安全講習会の開催（実施数増）	臨床工学技士、放射線技師、薬剤師等を講師とした、医薬品・医療機器を安全に使用するための講習会を毎月開催し、計画的に実施する。またオンラインでの開催も検討する。	講習研修会年10回以上開催
(4)	学生教育（実習）の充実	医学部生の実習に際し、地域医療の実践に向けた、魅力ある実習内容の企画・提案を行う。	医学部・医療大と協働で年度内実施
(5)	卒後教育（初期・後期）研修の充実	地域医療における屋根瓦教育体制の構築と更なる充実	初期の地域医療研修の受入数：62名／年

2021年度 倫理審査委員会 目標・計画

委員会名: 倫理審査委員会

責任者（委員長等）: 廣瀬 宗孝

1.年間目標

(1) 倫理指針に即した適切な委員会の運営及び審査の質の維持
(2) 研究者等に対する教育・研修の機会提供による研究倫理知識修得と意識醸成

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	倫理審査委員会の定期的開催	倫理指針を遵守し、研究計画の効率的かつ迅速な審査を目指し、毎月倫理審査委員会を開催する。	毎月1回、年12回開催
(2)	倫理審査委員及び事務に従事する者の教育・研修受講の徹底	倫理指針等に基づき、倫理的観点及び科学的観点からの審査等に必要な知識を習得することを目的として、倫理審査委員等を対象とした研修会を実施する。	年1回開催
(3)	研究者等に対する研究倫理に関する講習会の開催	倫理指針に基づき、研究の適正な推進が図られることを目的として、研究者を対象とした講習会を実施する。	年1回開催

2021年度 先端医学研究所運営委員会 目標・計画

委員会名: 先端医学研究所運営委員会

責任者（委員長等）：吉村 紳一

1.年間目標

(1) 先端医学セミナーの開催

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	先端医学セミナーの開催	平成26年度より、先端医学研究所主催で年に一度、定めたテーマの最新の研究内容について、学内の若手研究者が発表する先端医学セミナーを開催している。今年度（第8回）もテーマを決めて開催予定である。	今年度中（10月～11月頃）に開催する

2021年度 共同利用研究施設運営委員会 目標・計画

委員会名: 共同利用研究施設運営委員会

責任者（委員長等）: 中込 隆之

1.年間目標

(1) 研究：共同で利用する設備機器を適正に管理し、大学の研究活動を支援する。
(2) 施設：設備機器の計画的な整備及び研究環境の改善を推進する。
(3) 教育：講習会、取扱説明を通じて実験についての必要な知識と技術を提供し、利用者の研究活動を支援する。
(4) 大学統合：2022年度の大学統合に向けた共同利用研究施設の再編について検討を行う。

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	次年度予算案の立案（経常費、設備機器費）	共同利用研究施設経常費について、要求案の審議を行う。また、共同利用研究施設に必要と思われる設備機器について調査し、運営委員会として設備機器費要求案を作成する。	運営委員会での審議、報告（10月予定）
(2)	設備機器更新計画のブラッシュアップ	昨年度策定された設備機器更新計画について、利用状況やサポート終了等の情報に基づき設備機器更新計画のブラッシュアップを行う。	運営委員会での審議、報告（10月予定）
(3)	利用者への技術支援および設備機器の利用促進	最新機器のセミナーや新規に設置された設備機器の取扱説明会を開催する。また、既存の設備機器について、実技を中心とした講習会を開催し、利用者への技術支援とともに、設備機器の利用を促進させる。	運営委員会での報告
(4)	研究技術講習会の実施	教職員の実験技術の向上を目的とした研究技術講習会の内容について審議し、実施する。	・研究技術講習会の審議（6月予定） ・研究技術講習会の開催（8月予定）
(5)	共同利用研究施設の再編についての検討	2022年度の大学統合に向けた共同利用研究施設の再編について、教員組織部会 研究ワーキンググループでの審議結果に応じて検討を行う。	運営委員会での検討（審議もしくは報告）（10月予定）

2021年度 動物実験委員会 目標・計画

委員会名: 動物実験委員会

責任者（委員長等）：中込 隆之

1.年間目標

- (1) 本学で実施する全ての動物実験について、事前に、その実験計画が本学規程及び関係法令に適合しているかを審査し、その結果を学長に報告する。
- (2) 学長の委任により、動物実験実施者及び実験動物の飼養者に対して、法令等、本学の定める規程等、動物実験の方法及び実験動物の取扱に関する事項、実験動物の飼養保管に関する事項、安全確保、安全管理に関する事項、施設等の利用に関する事項、人獣共通感染症に関する事項、その他、適切な動物実験等の実施に関する事項の知識を習得するための教育訓練を実施する。
- (3) 動物実験等に関する諸事項について、体制等の整備状況及び当該年度の実施状況等を自己点検・評価し、その結果を情報公開する。
- (4) その他、動物実験に関する必要事項等を実施する。

2.年間計画

	計画名	計画概要	目標数値・指標
(1)	動物実験計画の審査	月2回の締切に準じ、新規申請は持ち回り委員会、変更申請は規程に基づき委員長及び病態モデル研究センターの実験動物管理者により、申請のあった動物実験計画を審査する。	本年度から実施する全ての新規動物実験及び実験計画に変更の生じた動物実験。
(2)	動物実験に関する教育訓練	①今年度用に作成した教育訓練内容の動画を研究者受講管理システムを用いて配信し、受講確認後に受講者に対し確認試験を実施する。 ②兵庫県動物愛護条例に基づき、実験動物の飼養又は保管の作業に従事する者に実験動物の飼養又は保管に関する教育の実施を、本学の各飼養保管施設管理者に依頼し、実施状況を確認する。	①随時実施。 ②各飼養保管施設の飼養保管状況の自己点検・評価に併せて実施。
(3)	自己点検・評価（2020年度）および情報公開	①公益社団法人 日本実験動物学会の外部検証プログラムに沿って、前年度の動物実験の実施体制、実施状況、実験動物の飼養保管の体制及び飼養状況等を根拠資料に基づき自己点検・評価する。終了する実験計画については、実施状況の自己点検・評価とあわせて実施結果を確認し、必要に応じ学長に助言等を行う。 ②公益社団法人 日本実験動物学会の外部検証プログラムに基づく、外部検証を受審する。 ③既存施設について、委員長、副委員長及び病態モデル研究センターの実験動物管理者等が現地調査し、その結果を委員会および学長に報告する。 ④文科省基本指針に基づき、上記自己点検・評価の結果の他、昨年度の動物実験計画の審査状況及び実験動物の飼養保管状況並びに改正規程等を本学動物実験委員会のページに公開する。	①2019年度分の実施。 ②今年度中に実施。 ③既存施設点検、1回/年度。 ④前年度分自己点検・評価、本年4月時点の実験動物の飼養保管状況、昨年度の動物実験委員会委員の構成、改正した規程等を公開する。
(4)	動物実験規程の見直し及び改正	動物愛護管理法等の改正や社会情勢の変化により動物実験規程の見直しを検討し、必要に応じ改正を行う。	今年度中に実施。
(5)	実験動物慰霊祭	同慰霊祭を主催し、動物実験を実施する本学教職員及び学生等の参加のもと、医学の教育や研究のために尊い命を捧げた実験動物の御霊に感謝の意を捧げる。	2021年12月7日 挙行予定。

データブック

社会の福祉への奉仕

人間への深い愛

人間への幅の広い科学的理解

使命

建学の精神に基づき以下の目的と教育目標を成し遂げることを使命とする。

目的

兵庫医科大学医学部は「建学の精神」を具現化する為に次の目的を掲げる。

- 1) 豊かな人間性と高い倫理観を培い、幅広く様々な人々と共感でき、かつ信頼され得る人格を育成する。
- 2) 人間を自然科学的のみならず人文社会科学的にも幅広く理解し、医科学に関わる基本的な知識と技能を身に付けると共に、その過程で遭遇する様々な問題点を的確に把握し解決できる応用力を育成する。
- 3) 修得した態度、知識、技能を多様な医学領域および種々の専門領域において実践することにより、幅広い視野に立って社会の福祉へ奉仕できる有能な医師を社会に送り出すことを究極の目的とする。

教育目標

「建学の精神」および「目的」に則って、学生が卒業時まで以下
の項目について十分な能力を備えることを教育目標とする。

- 1) 幅の広い教養と国際保健に貢献する素養を身に付ける。
- 2) 様々な人々との触れ合いを体験することによって、多様な考え方を理解し、また共感できる豊かなコミュニケーション能力を育む。
- 3) 様々なハンディキャップを抱える人々を支援扶助する心と態度を醸成し、また支援扶助の社会的仕組みについて理解する。
- 4) 人体の構造、機能及び異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識を身につける。
- 5) 様々な疾病に対する適切で安全な治療法を理解し、かつ患者の権利と生命の尊厳を十分に理解した上で基本的な医療技術を修得する。
- 6) 人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解を深める。
- 7) 様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、真理を探究する研究能力と的確に判断し解決できる応用力を育む。
- 8) 強い使命感と優れた協調精神を有し、社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養と生涯にわたって能動的に学び続ける姿勢を身につける。

建学の精神

社会の福祉への奉仕 人間への深い愛 人間への幅の広い科学的理解

目指す姿

21世紀に即した医学・医療の持続的な展開と、
それらを担う高質の医療人の育成を使命とする医療総合大学

基本コンセプト

法人部会

健全な財政基盤を確立し、時代の変化に対応できる人材の育成

医科大学部会

次世代の医学・医療を担う医療人の育成と質の高い研究の実践

医療大学部会

医系総合大学としての教学基盤の確立

大学病院部会

社会の要請に応える特定機能病院として、より安全で質の高い次世代医療の提供

篠山キャンパス部会

地域包括ケアの「篠山モデル」を構築し、地域から信頼される医療・福祉の提供

戦略・施策

法人部会

- ①財務計画の着実な実行
 - ①中期財務計画の策定
 - ②予算編成方法の改善と予算執行管理の徹底
- ②兵庫医科大学開学50周年記念事業の実施
 - ③募金事業実施体制の構築と募金事業の実施
 - ④50周年記念事業の計画と実施
- ③新病院建設のための態勢整備
 - ⑤新病院整備計画の策定と実行
 - ⑥新病院建設特定資産の積立
- ④緊急時も含めた法人機能の維持
 - ⑦各キャンパスの危機管理体制の点検整備
- ⑤効率的かつ効果的なICTの活用
 - ⑧ICT基本計画の策定
 - ⑨情報システム導入効果の可視化
- ⑥意欲的に働くことのできる組織・職場づくり
 - ⑩医師の職場復帰のための再教育プログラム策定
 - ⑪新たな事務体制の確立と人材育成
 - ⑫教職員のモチベーション向上のための人事考課制度の処遇への反映
 - ⑬長時間労働の是正並びに有給休暇取得率の向上
- ⑦「対応型」から「戦略型」広報体制への転換
 - ⑭各部門の広報体制及び広報業務の見直しによる法人広報体制の確立
- ⑧医系総合大学として、質の高い医療人を育成する体制の構築
 - ⑮改組に伴う医療人育成研修センターの強化
 - ⑯医科大学と医療大学の統合による新たな医系総合大学の創出
- ⑨新たな拠点の開設による新規ニーズの発掘
 - ⑰早期発見・早期治療を実現する幅広い医療提供

医科大学部会

- ①質の高い医師を輩出するための教育の充実
 - ①問題解決能力の向上を目指すした教育体制の充実
 - ②国際的に活躍できる人材育成
 - ③入試制度改革
 - ④学生生活支援体制の充実
 - ⑤大学院教育の改革と充実
- ②質の高い研究成果の創出
 - ⑥競争的資金獲得に向けた組織的取り組みの強化
 - ⑦基礎研究とトランスレーショナルリサーチの活性化
 - ⑧臨床研究の質的向上
- ③帰属意識の向上
 - ⑨兵庫医科大学卒業生と在学生の帰属意識の向上

医療大学部会

- ①次代を担う中核的医療人育成の教育研究の強化
 - ①兵庫医科大学との統合に向けた協働
 - ②次代を拓くヘルスサイエンスの深化と創出
- ②大学の「地域性」の定着と実績づくり
 - ③地域社会との双方向の教学実施による社学連携
 - ④医療人のキャリアアップを目指す生涯教育支援
- ③受験生の安定的確保と学生の学習支援の充実
 - ⑤学生一人ひとりに向き合う支援体制の充実
 - ⑥入試改革と受験生確保
- ④大学自己改革の推進
 - ⑦自己点検・評価による教育の質保証と情報の公開

大学病院部会

- ①がん診療機能の充実に向けた体制強化
 - ①多様なニーズに対応するがん専門医療人の育成
 - ②がん診療における地域連携の推進
- ②高度急性期医療の推進
 - ③新たな救急診療体制の構築
 - ④手術センター・アイセンターの効率的運用
- ③診療・臨床研究における地域との協働
 - ⑤関連病院との連携強化
 - ⑥医療支援センターの活性化
 - ⑦医師主導治験の主体的支援
- ④特色のある医療の実施
 - ⑧次世代医療の導入
- ⑤新病院建設に向けた財政基盤の確立
 - ⑨新病院建設に向けた目標収支差額の確保

篠山キャンパス部会

- ①地域包括ケアシステムの構築に向けた体制整備
 - ①旧病院跡地利用計画の策定と実行
 - ②在宅療養支援病院の充実
 - ③外来診療体制及び健診業務の充実
 - ④地域包括ケアの深化・推進
- ②総合診療・地域医療を支える医療人の育成
 - ⑤卒前・卒後教育における地域医療研修の充実
 - ⑥西宮本院と連携した戦略的人材交流の実施
 - ⑦労働生産性の向上・多職種連携による効率化
- ③地域に貢献し信頼されるブランドの確立
 - ⑧地域と連携し、市民に開かれたキャンパスづくり

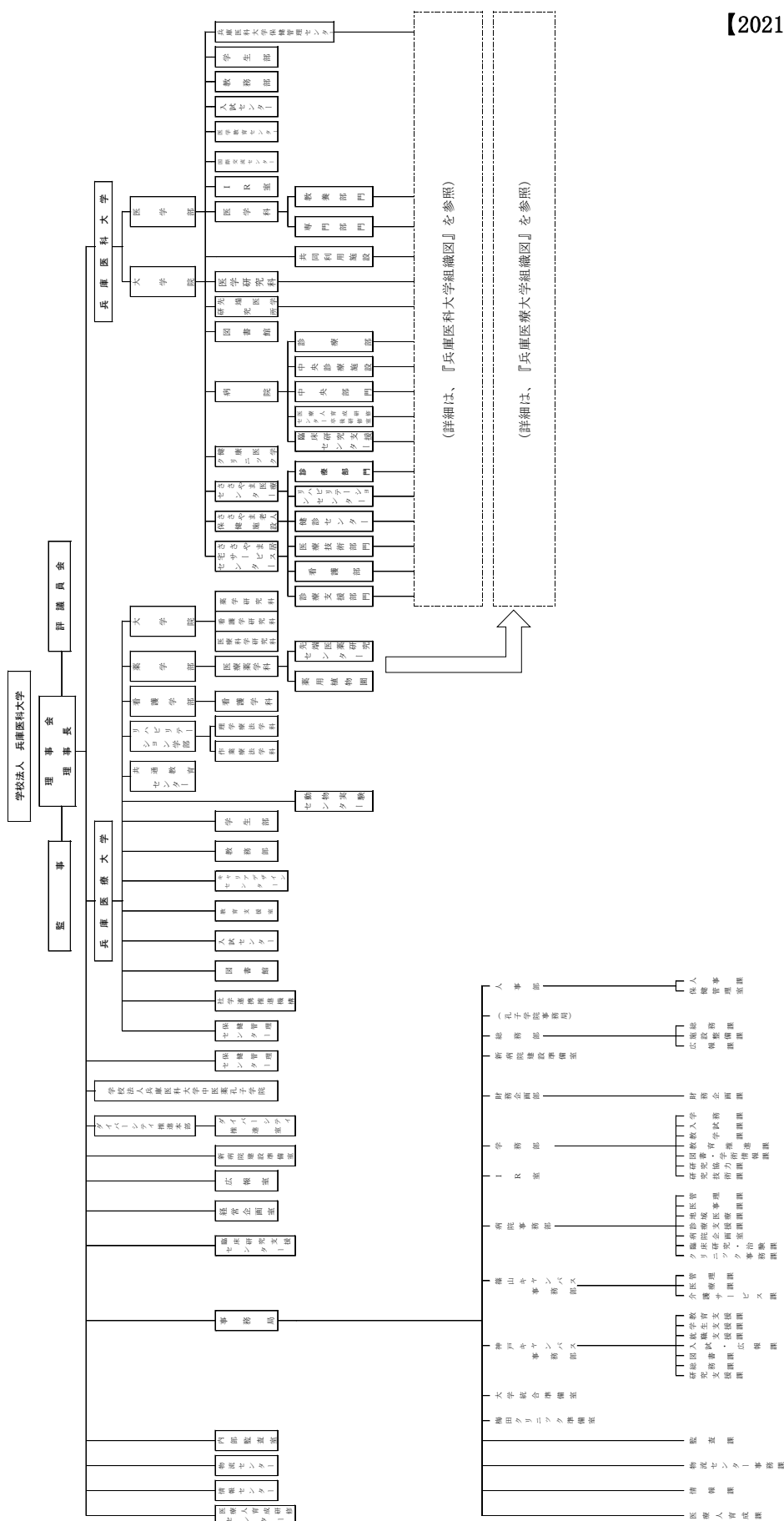
兵庫医科大学 沿革

1971年	11月	学校法人兵庫医科大学寄附行為認可及び兵庫医科大学設置認可
1972年	4月	兵庫医科大学開学(入学定員 医学部 100名)
	4月	兵庫医科大学病院開設
1973年	8月	病院棟(1号館)完成
1974年	4月	中央動物実験棟(7号館)完成
	8月	校舎、講堂(3号館)完成
1978年	3月	兵庫医科大学大学院医学研究科設置認可
1980年	2月	病院・研究棟(8号館)完成
	8月	兵庫医科大学 ドイツ連邦共和国ザールランド大学との学術交流に関する協定を締結
1981年	11月	鳴尾浜総合グラウンド完成
1984年	4月	研究棟(9号館)完成
1994年	3月	兵庫医科大学病院 特定機能病院に指定
1995年	1月	阪神・淡路大震災 被災
1996年	10月	兵庫医科大学病院 災害拠点病院に指定
	11月	兵庫医科大学病院 エイズ拠点病院に指定
1997年	4月	先端医学研究所開設
	10月	兵庫医科大学篠山病院開設
	11月	立体駐車場完成
1999年	6月	兵庫医科大学リハビリテーションセンター開設
	9月	兵庫医科大学ささやま老人保健施設開設
	11月	兵庫医科大学 中華人民共和国汕頭大学医学院との学術交流に関する協定を締結
2000年	3月	病院棟(10号館)完成(開学25周年記念事業)
2001年	4月	兵庫医科大学附属看護専門学校開校
2004年	3月	兵庫医科大学 大学基準協会の相互評価により、大学基準適合の認定
2005年	3月	平成記念会館完成(開学30周年記念事業)
	12月	兵庫医科大学病院 日本医療機能評価機構より病院機能評価(Ver.4)の認定
2006年	3月	兵庫医科大学 中華人民共和国天津医科大学との学術交流に関する協定締結
	11月	学校法人兵庫医科大学寄附行為変更認可及び兵庫医療大学設置認可
	11月	兵庫医科大学病院 PET センター開設
2007年	4月	兵庫医療大学開学 (入学定員 薬学部 150名、看護学部 100名、リハビリテーション学部 80名)
	7月	兵庫医科大学 関西学院大学との学術交流に関する包括協定締結
	7月	兵庫医科大学病院 兵庫県エイズ治療中核拠点病院に指定
	10月	兵庫医科大学 クロアチア共和国 Rijeka 大学医学部との学術交流に関する協定締結
2008年	2月	兵庫医科大学病院 地域がん診療連携拠点病院に指定
	4月	兵庫医科大学病院 肝疾患診療連携拠点病院に指定
	7月	学校法人兵庫医科大学 篠山市と兵庫医科大学篠山病院の運営と整備に関する基本協定を締結
2009年	3月	兵庫医科大学附属看護専門学校閉校
	3月	兵庫医療大学 体育館 完成
	4月	兵庫医科大学 緊急医師確保対策として2名、「骨太の方針2008」により8名増員となり、入学定員は110名となる
	4月	兵庫医科大学病院 兵庫県認知症疾患医療センターに指定
2010年	6月	兵庫医科大学ささやま医療センター開院(兵庫医科大学篠山病院を改称)
	12月	兵庫医療大学大学院看護学研究科及び医療科学研究科設置認可
	12月	兵庫医科大学病院 日本医療機能評価機構より病院機能評価(Ver.6)の認定
2011年	3月	兵庫医科大学 大学基準協会の認証評価により、大学基準適合の認定
2012年	11月	兵庫医療大学大学院薬学研究科設置認可
	11月	学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院設立
	11月	兵庫医科大学 アメリカ合衆国カリフォルニア大学サンディエゴ校と学術交流に関する基本合意書を締結

	12月	兵庫医科大学病院 急性医療総合センター完成(開学40周年記念事業)
2013年	3月	兵庫医療大学 大学基準協会の認証評価により、大学基準適合の認定
2013年	5月	兵庫医科大学 ブルガリア共和国ソフィア医科大学との学術交流に関する協定を締結
	12月	兵庫医科大学ささやま医療センター 日本医療機能評価機構より病院機能評価(3rdG:Ver.1.0一般病院1)の認定
2014年	3月	兵庫医療大学 オーストラリア連邦アデレード大学と学術交流に関する基本合意書を締結
	4月	兵庫医科大学 研究医養成枠として2名増員し、入学定員は112名となる
2015年	4月	兵庫医科大学 健康医学クリニック開設
	4月	兵庫医療大学 社学連携推進機構設置
2016年	1月	兵庫医科大学ささやま居宅サービスセンター開設
	2月	兵庫医科大学病院 日本医療機能評価機構より病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)の認定
	3月	学校法人兵庫医科大学 篠山市との土地交換契約を締結
	12月	ドイツ連邦共和国ビュルツブルグ大学医学部と学術交流協定を締結
2017年	11月	教育研究棟 竣工
2018年	2月	兵庫医科大学病院 兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院に指定
	3月	兵庫医科大学 大学基準協会の認証評価により、大学基準適合の認定
	6月	学校法人兵庫医科大学 篠山市との病院運営継続の基本協定を締結
2019年	2月	兵庫医科大学ささやま医療センター 日本医療機能評価機構より病院機能評価(3rdG:Ver.2.0一般病院1)及びリハビリテーション病院(副機能)の認定
2019年	4月	兵庫医科大学病院 兵庫県難病診療連携拠点病院に指定
2019年	8月	兵庫医科大学ささやま居宅サービスセンター 厚生労働省より「機能強化型訪問看護ステーション(機能強化型訪問看護管理療養費3)」の認定
2019年	9月	兵庫医科大学病院 がんゲノム医療拠点病院に指定
2021年	3月	新立体駐車場・デッキ棟完成

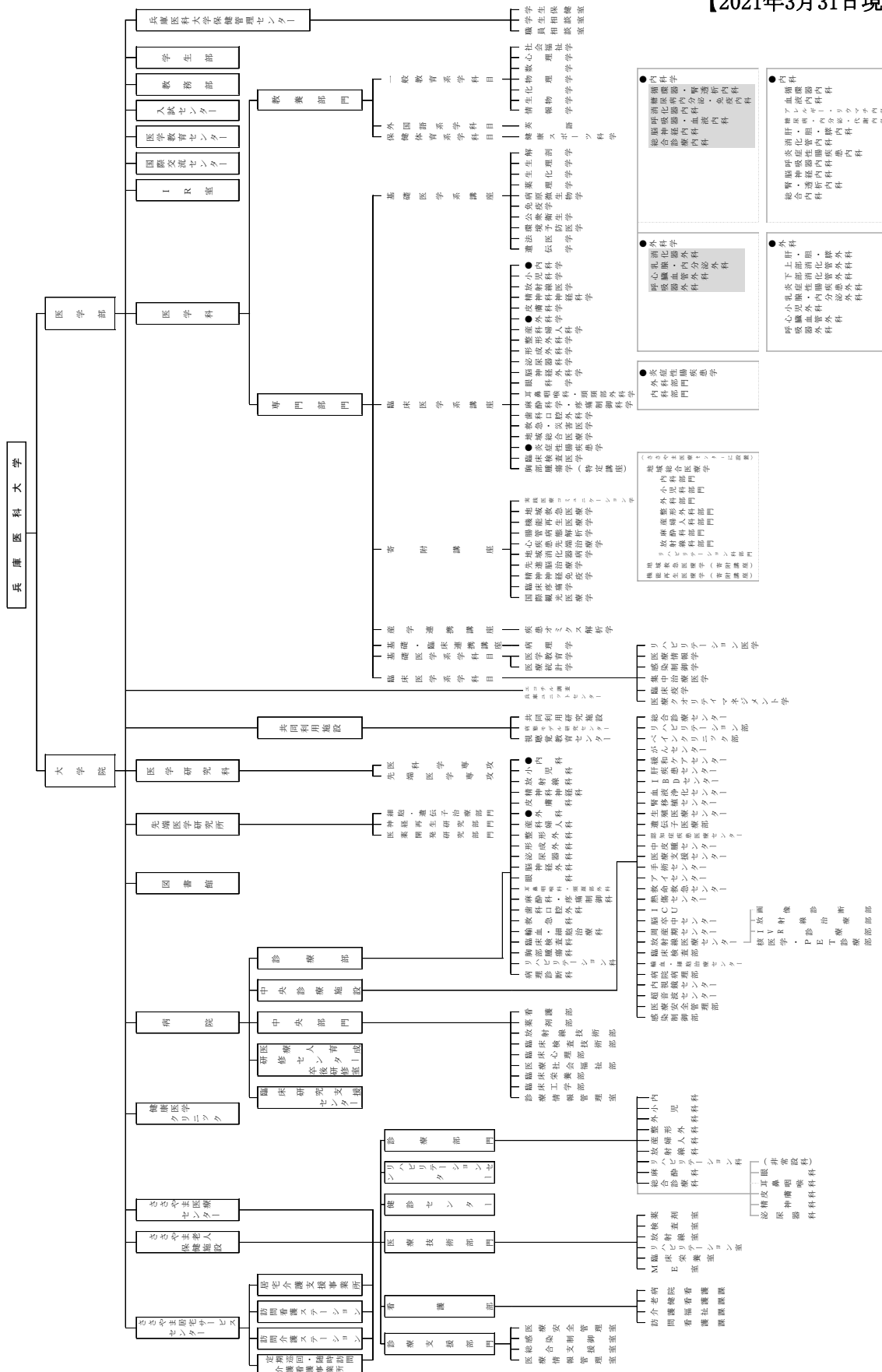
学校法人兵庫医科大学 組織図

【2021年3月31日現在】



兵庫医科大学 組織図

【2021年3月31日現在】



1. 医学部 教育関連

(1) 医学部学生数（2021 年 5 月 1 日現在）

－社会人学生数：0 人

学年次	定員	在学者数		
		総数	男	女
1	112	126(112)	65(59)	61(53)
2	112	119	63	56
3	112	103	55	48
4	112	117	64	53
5	112	124	76	48
6	112	116	76	40
計	672	705	399	306

※（ ）内は 2021 年度入学者

(2) 収容定員充足率（2021 年 5 月 1 日現在）

	定員	学生数	収容定員充足率
医学部	672	705	104.9%

(3) 2020 年度医学部進級（卒業）等状況

① 2020 年度医学部進級（卒業）認定数等

学年次	学生数	進級(卒業)	留年	退学	除籍
1	126	110	14	2	0
2	111	101	9	1	0
3	110	108	2	0	0
4	124	115	9	0	0
5	118	109	9	0	0
6	110	101	7	2	0
計	699	644	50	5	0

※ 第 1 学年次退学者数は年度途中退学者を含む

②（参考）年度別 留年・退学等状況（2014～2020 年度）

年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
学生数	688	696	702	709	708	704	699
留年	55	45	50	47	42	41	50
退学	3	3	7	6	2	6	5
除籍	0	0	0	0	0	0	0
進級(卒業)率	91.6%	93.1%	91.9%	92.5%	93.8%	93.3%	92.1%

③ 卒業（修了）者数累計

2021 年 3 月 31 日現在 4,509 名

（うち、2021 年 3 月卒業（修了）者 101 名（男 60 名、女 41 名））

④ 学位授与数・学位授与率（2021 年 3 月末日現在）

学位名称：「学士（医学）」

2020年度 修了者数	学位授与数	学位授与率
101	101	100%

(4) 教員数（2021 年 5 月 1 日現在）

① 年齢別教員数

年齢	人数
29歳以下	0
30～39歳	136
40～49歳	170
50～59歳	102
60～69歳	34
70歳以上	0
総数	442

② 職階別教員数

	医学部	ささやま医療センター	先端医学研究所	計
学長	1	—	—	1
教授	74	0	1	75
准教授	30	1	2	33
講師	95	4	1	100
助教	222	10	1	233
計	422	15	5	442

③ 専任教員と非常勤教員の比率

専任教員	442 (63.1%)
非常勤教員	258 (36.9%)
総数	700

(5) 教員一人当たり学生数（2021 年 5 月 1 日現在）

	教員数	学生数	教員一人当たり学生数
医学部	442	705	1.60人

(6) 医師国家試験

第 115 回医師国家試験

試 験 日 : 2021 年 2 月 6 日 (土) ・ 7 日 (日)

合格発表日 : 2021 年 3 月 16 日 (火)

① 本学の状況

区分		新卒			既卒			計		
本年度		受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
		101	94	93.1%	3	3	100%	104	97	93.3%
参考	2019 年度	111	108	97.3%	7	7	100%	118	115	97.5%
	2018 年度	114	107	93.9%	3	3	100%	117	110	94.0%

② 全国の状況 (合格率)

新卒・既卒別		新 卒	既 卒	計
私立・全国別	私 立 平 均	93.8%	54.2%	91.1%
	全 国 平 均	94.4%	54.5%	91.4%

2. 医学部 入試関連

(1) 2021 年度 医学部入学試験

2021 年度入試では、一般選抜は従来型の一般選抜 A4 科目型と、導入 3 年目となる一般選抜 B 高大接続型を実施し、学校推薦型選抜は一般公募制、地域指定制及び特別選抜を実施した。また、文部科学省のガイドラインに基づき新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し、一般選抜 A4 科目型については、新型コロナウイルス感染症に罹患した等の理由で受験ができなかった入学志願者の受験機会を確保するため追試験を実施した。

1) 学校推薦型選抜

- ① 募集人員 : 一般公募制 約 12 名 (特別選抜 2 名以内を含む)
地域指定制 5 名以内
- ② 選抜方法 : 基礎学力検査、小論文、面接、調査書等を多面的・総合的に判定
- ③ 試験日 : 2020 年 11 月 22 日 (日)
- ④ 合格発表日 : 2020 年 12 月 1 日 (火)
- ⑤ 出願者数等 :

区分	一般公募	地域指定	特別選抜
出願者	49 名	36 名	2 名
合格者	11 名	5 名	2 名

2) 一般選抜 A4 科目型

- ① 募集人員 : 約 85 名
- ② 選抜方法 : 学科試験、小論文、面接、調査書等を多面的・総合的に判定
- ③ 試験日 : 第 1 次試験 2021 年 1 月 27 日 (水)
第 2 次試験 2021 年 2 月 6 日 (土) 又は 2 月 7 日 (日) の選択制
- ④ 合格発表日 : 第 1 次試験 2021 年 2 月 4 日 (木)
第 2 次試験 2021 年 2 月 13 日 (土)
- ⑤ 出願者数等 :

区 分	人 数
出 願 者	1,540 名
第 1 次試験合格者	449 名
第 2 次試験合格者 (正規)	149 名

3) 一般選抜 B 高大接続型

- ① 募集人員 : 約 10 名
- ② 選抜方法 : 学科試験、小論文、個人面接、課題型面接、調査書、英語資格
検定試験等を多面的・総合的に判定
- ③ 試験日 : 第 1 次試験 2021 年 1 月 27 日 (水)
第 2 次試験 2021 年 2 月 15 日 (月)
- ④ 合格発表日 : 第 1 次試験 2021 年 2 月 13 日 (土)
第 2 次試験 2021 年 2 月 24 日 (水)
- ⑤ 出願者数等 :

区 分	人 数
出 願 者	248 名
第 1 次試験合格者	89 名
第 2 次試験合格者 (正規)	10 名

4) 入学者数

区 分		人 数
入 学 者	学校推薦型選抜（一般公募制）	11 名
	学校推薦型選抜（地域指定制）	5 名
	学校推薦型選抜（特別選抜）	2 名
	一般選抜 A4 科目型	84 名
	一般選抜 B 高大接続型	10 名
	合 計	112 名

5) 入学者推移（直近 3 力年）

	年度	入学者数	入学定員
医学部	2021	112	112
	2020	112	112
	2019	112	112

3. 大学院関連

(1) 2021 年度 大学院入学試験

入学試験は、前期募集については2020年9月5日（土）に、後期募集については2021年2月2日（火）に、外国語試験及び口述試験（面接）が実施され、合格者の発表は2020年10月2日（金）及び2021年2月24日（水）に行われた。

前期募集

区分	人数	内 訳							
		医 科 学 専 攻					先 端 医 学 専 攻		
		器官・代謝制御系	高次神経制御系	生体応答制御系	生体再生制御系	環境病態制御系	分子病態制御系	疼痛情報制御系	分子再生医学系
出願者	10	2	3	1	1	2	0	0	1
受験者	10	2	3	1	1	2	0	0	1
合格者	10	2	3	1	1	2	0	0	1
入学者	10	2	3	1	1	2	0	0	1

後期募集

区分	人数	内 訳							
		医 科 学 専 攻					先 端 医 学 専 攻		
		器官・代謝制御系	高次神経制御系	生体応答制御系	生体再生制御系	環境病態制御系	分子病態制御系	疼痛情報制御系	分子再生医学系
出願者	32	8	18	2	0	4	0	0	0
受験者	32	8	18	2	0	4	0	0	0
合格者	32	8	18	2	0	4	0	0	0
入学者	32	8	18	2	0	4	0	0	0

(2) 入学者推移（直近3ヵ年）

	年度	入学者数	入学定員
大学院	2021	42	60
	2020	51	60
	2019	51	60

(3) 学生数（2021年5月1日現在）

一社会人学生数：214人

※専攻別学生数は、次ページのとおり

学年次	大学院・博士課程			
	定員	在学者数		
		総数	男	女
1	60	42	33	9
2	60	53	35	18
3	60	51	34	17
4	60	76	50	26
計	240	222	152	70

	専攻	学 年	学 生 数	内 訳	
				昼間履修	夜間履修
医 科 学 専 攻	器官・代謝制御系	1	10	2	8
		2	15	5	10
		3	23	10	13
		4	40	7	33
	高次神経制御系	1	21	2	19
		2	17	3	14
		3	16	2	14
		4	14	2	12
	生体応答制御系	1	3	1	2
		2	14	2	12
		3	3	1	2
		4	14	2	12
	生体再生制御系	1	1	0	1
		2	0	0	0
		3	0	0	0
		4	0	0	0
	環境病態制御系	1	6	1	5
		2	6	1	5
		3	7	1	6
		4	5	0	5
先 端 医 学 専 攻	分子病態制御系	1	0	0	0
		2	0	0	0
		3	1	1	0
		4	0	0	0
	疼痛情報制御系	1	0	0	0
		2	0	0	0
		3	0	0	0
		4	1	0	1
	分子再生医学系	1	1	0	1
		2	1	0	1
		3	1	0	1
		4	2	0	2
			222	43	179

(4) 収容定員充足率（2021 年 5 月 1 日現在）

	定員	学生数	収容定員充足率
大学院	240	222	92.5%

(5) 学位授与数（2021 年 5 月 1 日現在）

学位名称：「博士（医学）」

	甲号	乙号
学位授与数	931	426

(6) 教員一人当たり学生数（2021 年 5 月 1 日現在）

	教員数	学生数	教員一人当たり学生数
大学院	318	222	0.70人

4. 公的研究費等 補助金 関係

(1) 研究費

① 2020 年度 科学研究費助成事業

(単位：円)

研究種目名		件数			総交付額
			直接経費	間接経費	
基盤研究 (B)		11	38,500,000	11,550,000	50,050,000
基盤研究 (C)		79	79,100,000	23,730,000	102,830,000
挑戦的研究(萌芽)		3	4,700,000	1,410,000	6,110,000
若手研究		34	38,100,000	11,430,000	49,530,000
国際共同研究強化 (B)		1	3,100,000	930,000	4,030,000
研究活動スタート支援		2	2,200,000	660,000	2,860,000
奨励研究		2	960,000	0	960,000
合 計		132	166,660,000	49,710,000	216,370,000
参考	2019 年度	132	167,550,000	49,500,000	217,050,000
	2018 年度	131	191,310,000	56,940,000	248,250,000

② 2020 年度 厚生労働科学研究費

(単位：円)

研究事業名		件数			総交付額
			直接経費	間接経費	
難治性疾患等政策研究事業		1	11,500,000	3,450,000	14,950,000
合 計		1	11,500,000	3,450,000	14,950,000
参考	2019 年度	1	11,500,000	3,450,000	14,950,000
	2018 年度	2	23,039,000	6,911,000	29,950,000

③ 2020 年度 日本医療研究開発機構 (AMED) 研究費

(単位：円)

研究事業名		件数			総交付額
			直接経費	間接経費	
創薬支援推進事業 創薬総合支援事業		3	24,212,760	2,421,276	26,634,036
研究公正高度化モデル開発支援事業		1	23,000,000	6,900,000	29,900,000
医療機器開発推進研究事業		1	29,460,000	8,838,000	38,298,000
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業		1	50,000,000	15,000,000	65,000,000
合 計		6	126,672,760	33,159,276	159,832,036
参考	2019 年度	4	63,569,595	16,614,758	80,184,353
	2018 年度	3	78,602,616	22,217,184	100,819,800

④ 2020 年度 環境再生保全機構（ERCA）研究費

（単位：円）

研究事業名		件数	経費		総交付額
			直接経費	間接経費	
環境研究総合推進費事業		1	30,593,000	8,477,000	39,070,000
合 計		1	30,593,000	8,477,000	39,070,000
参考	2019 年度	1	19,164,000	5,006,000	24,170,000

⑤ 2020 年度 科学技術振興機構（JST）研究費

（単位：円）

研究事業名		件数	経費		総交付額
			直接経費	間接経費	
戦略的創造研究推進事業		1	11,000,000	3,300,000	14,300,000
研究成果展開事業		1	140,000	42,000	182,000
合 計		2	11,140,000	3,342,000	14,482,000
参考	2019 年度	1	15,041,000	4,512,300	19,553,300

（2）補助金等

① 2020 年度エコチル調査委託事業精算金（環境省）

（単位：円）

環境省委託事業名		件数	経費		総交付額
			直接経費	一般管理費	
エコチル調査		1	90,629,250	13,594,386	104,223,636
参考	2019 年度合計	1	90,316,892	13,461,133	103,778,025
	2018 年度合計	1	78,814,645	11,674,415	90,489,060

② 2020 年度多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン補助金分配金（文部科学省）

（単位：円）

研究事業名		件数	経費		本学分配額
			各部署配分額	事務経費	
多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン		1	2,920,000	1,440,000	4,360,000
参考	2019 年度合計	1	2,920,000	1,715,000	4,635,000
	2018 年度合計	1	3,938,000	1,440,000	5,378,000

おわりに

本書では、全学的視点による点検・評価と、学内各委員会が行った点検・評価の結果を掲載している。2020年度では、新型コロナウイルス感染症の影響により、教育研究活動においても様々な転換を余儀なくされ、教職員、学生ともに新たな問題に直面することとなった。自己点検・評価活動においても、新たな問題について、どう対処していくかが課題となっている。これらの課題については、更なる改善・改革に取り組み、With & Post コロナ時代に即した教育体制を構築し、ステークホルダーから「選ばれる大学」となるよう、全学をあげて取り組んでいく。

また、本学は創立 50 周年を迎える 2022 年に、同一法人である兵庫医療大学と統合し、医学部、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の 4 学部からなる医系総合大学として、新たなスタートを切ることになる。「EMPOWER THE PEOPLE 心に響く医を、私たちがいるかぎり」を新たなスローガンに、地域社会から求められる医療人の育成を目指し、これまで実践してきた教育体制の更なる充実と発展を目指していく。

兵庫医科大学 学長
野口 光一

■新病院棟建設整備スケジュール及び現在の進捗状況

2017 年	2018 年	2019 年～2021 年	2022 年	2023 年	2025 年	2026 年
基本構想	基本計画	基本設計・実施設計	申請等	着工	竣工	開院

2026 年の新病院棟開院に向けて工事を進めていた「立体駐車場」と「デッキ棟」を 2020 年 12 月に竣工し、2021 年 4 月 1 日から本格稼働を開始。立体駐車場は従来よりも駐車台数を増やし、デッキ棟には保険調剤薬局を開設。

【教育研究棟(写真奥)の前に完成した「デッキ棟」】



【全体構想図】



2020年度 自己点検・評価年次報告書

発行日	2021年9月
発行	学校法人 兵庫医科大学 兵庫医科大学 兵庫県西宮市武庫川町1-1 tel. 0798-45-6111 (代表)
制作	兵庫医科大学内部質保証会議
